

路線・地域の概要

- **関係市町村**
大和高田市、橿原市、葛城市、広陵町
- **主な公共交通機関**
 - ・JR 桜井線・和歌山線
 - ・近鉄 橿原線 御所線 大阪線 田原本線 南大阪線
 - ・奈良交通(高田新家線 高田イオンモール線 高田五條線)
 - ・コミュニティバス: きぼう号(大和高田市)、れんかちゃんバス(葛城市)、広陵元気号
- **主な利用データ※**
 - ・JR高田駅 乗車人員 2,068人/日(R5)
 - ・JR金橋駅 乗車人員 605人/日(R5)
 - ・近鉄大和高田駅 乗車人員 13,509人/日(R5)
 - ・近鉄大和八木駅 乗車人員 32,974人/日(R5)
 - ・近鉄高田市駅 乗車人員 6,212人/日(R5)
 - ・近鉄尺土駅 乗車人員 4,017人/日(R5)
 - ・近鉄忍海駅 乗車人員 1,256人/日(R5)
 - ・近鉄箸尾駅 乗車人員 1,410人/日(R5)
 - ・奈良交通高田新家線: 診断指標達成(R6)
 - ・奈良交通高田イオンモール線: 診断指標達成(R6)
 - ・奈良交通高田五條線: 診断指標達成(R6)

- **関係情報**
 - ・大和高田市シビックコア周辺地区の整備(市役所新庁舎完成(R3.7月))により都市機能の集積とにぎやかな交流拠点を創出
 - ・大和高田市のコミュニティバスについては鉄道や路線バスとの連携を図り、地域交通ネットワークの形成を推進している
 - ・「大和高田市地域公共交通計画(R4.3月)」交通結節点となる駅前まちづくりの推進、路線バスや病院送迎バス等との連携等の検討
 - ・広陵町地域公共交通計画策定(R4.3月)に基づく運行再編(R5.7月: 中央幹線ダイヤ・ルート及び予約型乗合バス「のーと広陵元気号」)の運行開始
 - ・住民アンケート及びワークショップの結果に基づいた運賃設定にしている(広陵元気号、のーと広陵元気号)
 - ・近鉄大和高田駅が市町境近くにあるため、効率的な公共交通ネットワークの検討には、市町の連携が重要
 - ・畝傍・金橋駅前にシェアサイクルポート設置(R6～)
 - ・橿原市内の桜井線の3駅(香久山駅・畝傍駅・金橋駅)に格闘ゲーム「ストリートファイター」に登場するキャラクターをデザインした駅名標を掲出(R6.12～)

令和9年度に目標とすべき状況(主な評価指標)

- ・対象のバス路線: 診断指標5項目の達成
- ・JR金橋駅の利用促進施策の実施
- ・エリアとして公共交通の利用促進に寄与することができる施策の実施

本エリアにおける公共交通の位置付けと課題

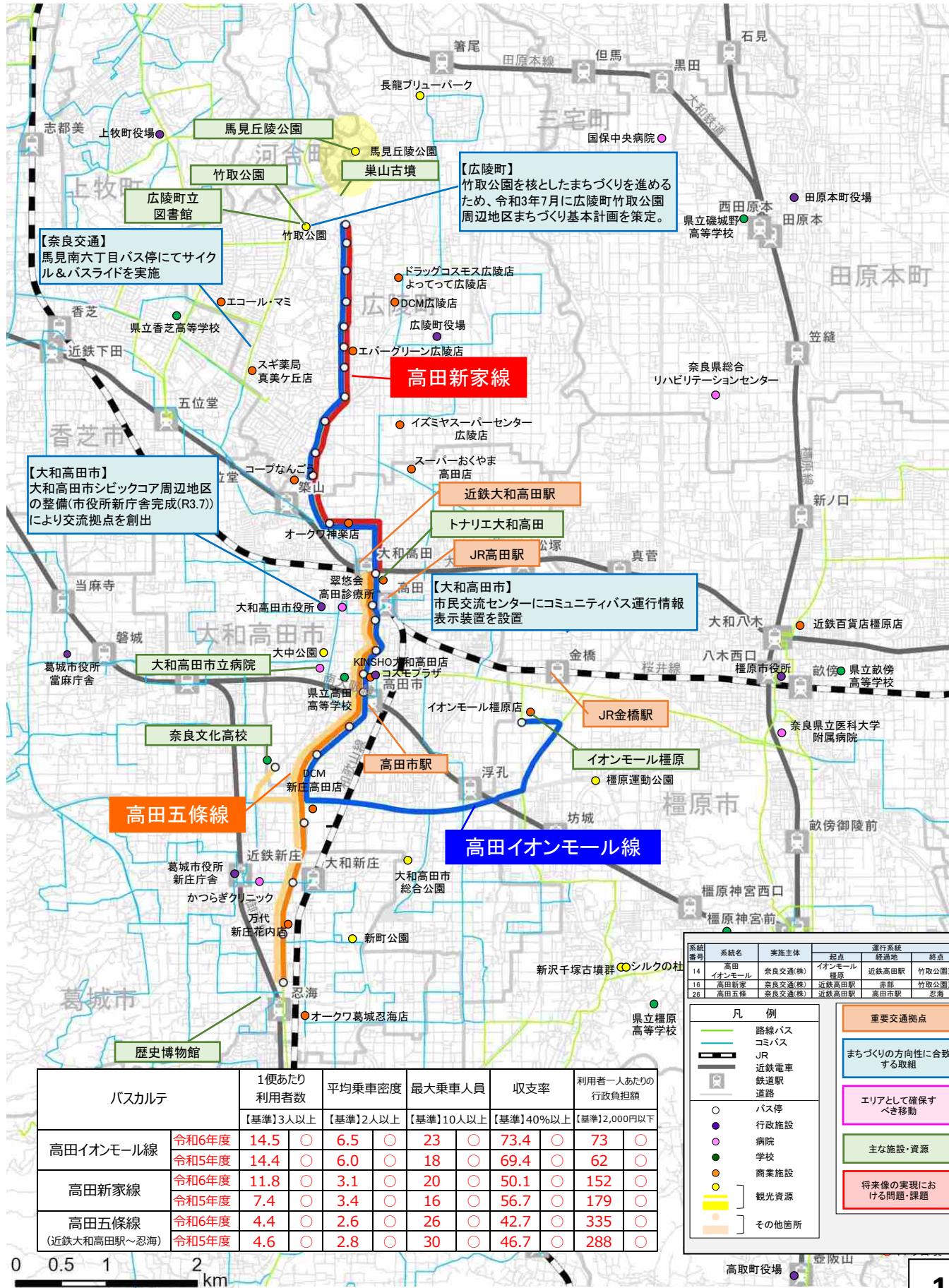
- 【位置付け】
 - 高田新家線、高田五條線はともに通勤・通学の利用が多い
 - 高田3駅エリアが地域の核として機能しており、3駅エリアのアクセス手段としてバスが機能している
 - バス路線の沿線にはイオンモール橿原、トナリエ大和高田、コスモプラザ等多くの施設が立地している
- 【課題】
 - 自治体や事業者の運営努力だけでは路線の維持が難しく、地域公共交通確保維持改善事業により運行を確保・維持する必要がある
 - 上記施設は、自家用車での利用が多いため、公共交通利用への転換を図る仕掛けが必要
 - JR金橋駅は需要が大きいイオンモール橿原の最寄り駅であるものの、利用者数が一日あたり605人と少なくなっている
 - バス停の待合環境の改善や、駅のバス停から各施設へ傘をささずに行けるような利用環境の改善が必要

取組の方向性

- 住民向け —
- 【目標】通院・買い物等、必要な用事を車がなくても便利に

- 住民のニーズ把握とそのニーズに応じた交通モードの導入
- 鉄道—路線バスの乗り継ぎ利便性の向上と待合環境、利用環境の向上
- デジタル技術等を活用した新たな利用促進策の取組立案と効果的な情報発信

まちづくりの方向性(イメージ図)



| バスカルテ | 1便あたり利用者数 | | 平均乗車密度 | | 最大乗車人員 | | 収支率 | | 利用者一人あたりの行政負担額 | | |
|-----------------------|-----------|------|----------|-----|-----------|----|-----------|------|----------------|-----|---|
| | 【基準】3人以上 | ○ | 【基準】2人以上 | ○ | 【基準】10人以上 | ○ | 【基準】40%以上 | ○ | 【基準】2,000円以下 | ○ | |
| 高田イオンモール線 | 令和6年度 | 14.5 | ○ | 6.5 | ○ | 23 | ○ | 73.4 | ○ | 73 | ○ |
| | 令和5年度 | 14.4 | ○ | 6.0 | ○ | 18 | ○ | 69.4 | ○ | 62 | ○ |
| 高田新家線 | 令和6年度 | 11.8 | ○ | 3.1 | ○ | 20 | ○ | 50.1 | ○ | 152 | ○ |
| | 令和5年度 | 7.4 | ○ | 3.4 | ○ | 16 | ○ | 56.7 | ○ | 179 | ○ |
| 高田五條線 (近鉄大和高田駅～忍海) | 令和6年度 | 4.4 | ○ | 2.6 | ○ | 26 | ○ | 42.7 | ○ | 335 | ○ |
| | 令和5年度 | 4.6 | ○ | 2.8 | ○ | 30 | ○ | 46.7 | ○ | 288 | ○ |

【出典】「国土数値情報(バスルート、バス停留所、鉄道、行政区域データ)」(国土交通省)を加工して作成。「地理院地図(Vector(仮称)提供実験)」(国土地理院)のデータをもとに、コンサベーションGISコンソーシアムが作成したデータ(道路中心線2020)を表示。

住民向けの取組

| | |
|-----------|---|
| 取組名 | 3駅エリアを核としたまちづくりとの連携 |
| 取組内容 | ・JR駅と近鉄駅の導線整備にあわせて、公共交通の利用促進を図る取組の検討・実施 |
| 実施主体・協力主体 | 大和高田市、奈良県、交通事業者 |
| 実施効果 | 公共交通利用者数の増加 |
| 実施期間 | R5.4～ |

| | |
|-----------|--|
| 取組名 | 通勤・通学需要の取込 |
| 取組内容 | ・通学や通勤時に自家用車を利用している層を公共交通利用に取り込むための取組や多様な交通モードを検討・実施 |
| 実施主体・協力主体 | 大和高田市、葛城市、広陵町、奈良県、交通事業者 |
| 実施効果 | 公共交通利用者数の増加 |
| 実施期間 | R5.4～ |

| | |
|-----------|---|
| 取組名 | 地域住民参画による移動手段の確保の検討 |
| 取組内容 | ・鉄道・バスによるカバー率の低い不便地区について、地域住民の主体的な取り組みを支援し、住民参画により検討を深め移動手段の確保を図る |
| 実施主体・協力主体 | 橿原市、奈良県 |
| 実施効果 | 公共交通の利便性向上 |
| 実施期間 | R5.4～ |

| | |
|-----------|--|
| 取組名 | バス停環境の改善 |
| 取組内容 | ・交通結節点となるバス停環境(上屋・ベンチの整備、情報発信拠点としての整備等)の改善を検討・実施 |
| 実施主体・協力主体 | 広陵町、県 |
| 実施効果 | 公共交通利便性の向上 |
| 実施期間 | R6.4～ |

| | |
|-----------|--|
| 取組名 | 広陵元気号の再編に伴う施設設備と広陵町版地域公共交通MaaSの構築 |
| 取組内容 | ・広陵元気号の運行再編に伴う利用環境整備(標柱改修・乗降場所サイン設置・パンフレット作成・運行データ作成)ならびに広陵町版地域公共交通MaaS構築により、住民の移動ニーズに応じた公共交通を提供・マイナンバーカードと連携したシステム導入の検討 |
| 実施主体・協力主体 | 広陵町、奈良県 |
| 実施効果 | 公共交通利便性の向上、利用者数の増加 |
| 実施期間 | R5.7～ |

| | |
|-----------|--|
| 取組名 | 複数の交通モード間の円滑な移動の確保ならびに待合環境の改善 |
| 取組内容 | ・ダイヤ調整等により複数の交通モード(鉄道・バス)などの乗り継ぎ利便性を向上させるとともに隣接施設と連携しバス停等の待合環境改善に向けた取組を検討・実施 |
| 実施主体・協力主体 | 奈良交通、沿線施設管理者、大和高田市、橿原市、葛城市、広陵町 |
| 実施効果 | 公共交通の利便性向上、待合環境の向上 |
| 実施期間 | R5.4～ |

| | |
|-----------|---|
| 取組名 | デジタル技術の活用及び、デジタル技術の使い方の講座等の実施 |
| 取組内容 | ・デジタル技術を活用した公共交通の利便性向上を図る取組を検討・実施するとともに、デジタル技術に慣れていない人へのデジタル技術活用方法の周知方法を検討・実施 |
| 実施主体・協力主体 | 大和高田市、橿原市、葛城市、広陵町、奈良県 |
| 実施効果 | 公共交通利用者数の増加 |
| 実施期間 | R5.4～ |

| | |
|-----------|---|
| 取組名 | コミュニティバスデータのGTFS化に伴うオープンデータ化及び住民への周知 |
| 取組内容 | ・令和4年度に県で整備したコミュニティバスデータのGTFSデータ化を活用し、各種検索サイトへのデータ提供や、住民へのPRの実施 |
| 実施主体・協力主体 | 大和高田市、橿原市、葛城市、広陵町、奈良県 |
| 実施効果 | コミュニティバスの利用者増加 |
| 実施期間 | R5.4～ |

| | |
|-----------|---|
| 取組名 | 近鉄大和高田駅改札前にデジタルサイネージの設置検討 |
| 取組内容 | ・奈良交通バス、大和高田市・広陵町のコミバスが乗り入れる近鉄大和高田駅付近にデジタルサイネージ設置を検討・実施 |
| 実施主体・協力主体 | 大和高田市、広陵町、県、奈良交通、近鉄 |
| 実施効果 | 公共交通利便性の向上 |
| 実施期間 | R5.8～ |

| | |
|-----------|--|
| 取組名 | 沿線施設と交通事業者が連携した公共交通利用への転換 |
| 取組内容 | ・沿線施設(商業施設・病院施設)の利用は、自家用車利用が多く、公共交通(バス・鉄道)利用者が少ないことから、沿線施設と交通事業者が連携した公共交通利用への転換を図る取組の検討・実施 |
| 実施主体・協力主体 | 交通事業者、沿線施設管理者、大和高田市、橿原市、葛城市、広陵町 |
| 実施効果 | 公共交通利用者数の増加 |
| 実施期間 | R5.4～ |

| | |
|-----------|--|
| 取組名 | 自動継続型金額式ICカード定期券「CI-CA plus」の利用促進 |
| 取組内容 | ・令和5年3月より販売を開始している自動継続型金額式ICカード定期券「CI-CA plus」の普及のためのPRを実施 ・コミュニティバスに活用する取組を検討・実施 |
| 実施主体・協力主体 | 奈良交通 |
| 実施効果 | バス利用者増加、それに伴う鉄道利用者増加 |
| 実施期間 | R5.3～ |

| | |
|-----------|--|
| 取組名 | バスロケーションシステムの構築 |
| 取組内容 | ・現在使用しているバスロケーションシステムがサービス終了するため、新たに構築を行う。 |
| 実施主体・協力主体 | 葛城市、交通事業者、県 |
| 実施効果 | 公共交通の利便性向上 |
| 実施期間 | R7.4～ |

路線・地域の概要

- 関係市町村
大和高田市、橿原市、五條市、御所市、葛城市
- 主な公共交通機関
 - ・JR 和歌山線 桜井線(万葉まほろば線)
 - ・近鉄 橿原線 南大阪線 大阪線 御所線
 - ・奈良交通(八木五條線 高田五條線 八木新宮線)
 - ・コミュニティバス: きぼう号(大和高田市)、橿原市コミュニティバス、五條市コミュニティバス、ひまわり号(御所市)、れんかちゃんバス(葛城市)
- 主な利用データ※
 - ・JR高田駅 乗車人員 2,068人/日(R5)
 - ・JR五条駅 乗車人員 972人/日(R5)
 - ・近鉄二上山駅 乗車人員 1,926人/日(R5)
 - ・近鉄大和高田駅 乗車人員 13,509人/日(R5)
 - ・近鉄大和八木駅 乗車人員 32,974人/日(R5)
 - ・近鉄高田市駅 乗車人員 6,212人/日(R5)
 - ・近鉄忍海駅 乗車人員 1,256人/日(R5)
 - ・奈良交通高田五條線: 5診断指標のうち、収支率が未達成

- 関係情報
 - ・八木新宮線は高速道路を使わない路線では日本一の走行距離
 - ・「橿原市地域公共交通計画(R5.3月)」に基づき各種施策を推進
 - ・御所市北部と南部エリアにおいて、令和7年4月からコミュニティバスとデマンド交通の本格運行を開始
 - ・「五條市地域公共交通計画(第2次ゴーちゃん交通計画)(R4.3月)」に基づき検討を実施
 - ・「大和高田市地域公共交通計画(R4.3月)」交通結節点となる駅前まちづくりの推進、路線バスや病院送迎バス等との連携等の検討
 - ・「葛城市地域公共交通計画」を令和3年度に策定し、コミュニティバス等の再編に向け、新たな実証運行計画について検討を実施
 - ・和歌山線五條駅、御所駅を着地とする日帰り旅行商品「駅プラン」発売(R6年秋)
 - ・JR西日本の月刊情報誌(イベント・グルメ・旅情報等を掲載)「西Navi」10月号に御所市を特集
 - ・高野山・吉野世界遺産登録20周年記念デジタルきっぷ発売 ※近鉄、南海、JR西日本(R6.7月~12月)

- 令和9年度に目標とすべき状況(主な評価指標)
 - ・高田五條線、八木新宮線: 診断指標5項目の達成

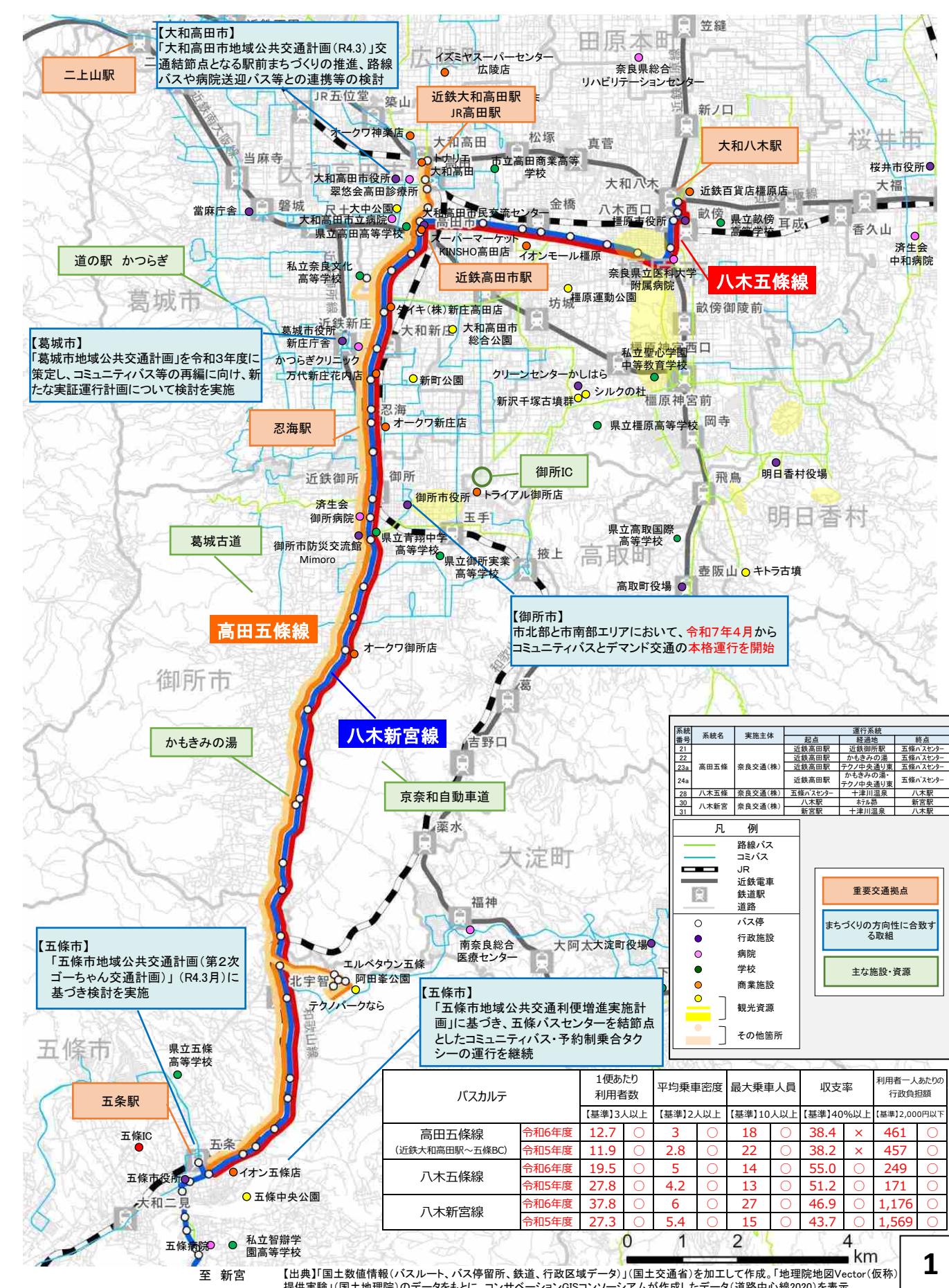
本エリアにおける公共交通の位置付けと課題

- 【位置付け】
 - 御所IC周辺では産業施設の立地誘導を検討している
 - 当該3路線は、買い物、通勤・通学、通院利用の他、観光、レジャーの目的で利用されている
 - 沿線近辺には、ハイキングコースとなっている葛城の道やかもきみの湯などが点在している
- 【課題】
 - 自治体や事業者の運営努力だけでは路線の維持が難しく、地域公共交通確保維持改善事業により運行を確保・維持する必要がある
 - 通勤・通学以外の利用者増に向け、潜在需要の取込と新たな交通需要を見つけることが必要
 - 企業立地にあわせて、公共交通の利用環境を整備するか
 - 公共交通利用増に向け、宿泊施設や温泉施設と連携した取組が必要

取組の方向性

- 住民向け—
 - 【目標】買い物・通院等、必要な用事を車がなくても便利に
 - 住民のニーズ把握とそのニーズに応じた交通モードの導入
 - 近鉄御所駅移設に併せた交通結節点の機能向上
 - 学生の公共交通利用促進に向けた取組の実施
- 観光客向け—
 - 【目標】公共交通を利用した観光のための取組実施
 - 公共交通を利用した観光モデルルート の立案・周知
 - 既存のコミュニティバスと周辺施設が連携したにぎわい創出の取組検討
- 現在誘致している御所IC周辺企業向け—
 - 【目標】公共交通を利用した通勤のための取組実施
 - 企業誘致事業と連携した公共交通利用者拡大に向けた仕掛けの検討
 - 公共交通を利用した通勤のPR及びピンセンティブ付与の検討

まちづくりの方向性(イメージ図)



住民向けの取組

| | |
|-----------|---|
| 取組名 | 市コミュニティバス等の運賃負担軽減の取組実施 |
| 取組内容 | ・市コミュニティバスの利用状況等を鑑み、利用者負担額を200円から100円にするなど、見直しを行い、利用者の運賃負担の軽減を実施する。 |
| 実施主体・協力主体 | 五條市、奈良県 |
| 実施効果 | 公共交通の運賃負担の軽減 |
| 実施期間 | R6.4～ |

| | |
|-----------|---|
| 取組名 | 地域住民参画による移動手段の確保の検討 |
| 取組内容 | ・鉄道・バスによるカバー率の低い不便地区について、地域住民の主体的な取り組みを支援し、住民参画により検討を深め移動手段の確保を図る |
| 実施主体・協力主体 | 橿原市、奈良県 |
| 実施効果 | 公共交通の利便性向上 |
| 実施期間 | R5.4～ |

| | |
|-----------|--|
| 取組名 | 住民向けのワークショップを踏まえての公共交通網のさらなる改善の実施 |
| 取組内容 | 令和6年度移動に関する困りごと等に関するワークショップ(意見交換会)を市内各地区で実施。ワークショップの内容を踏まえ、住民と一体的に公共交通の課題を解決することに取り組む。 |
| 実施主体・協力主体 | 五條市、県 |
| 実施効果 | 公共交通の利便性向上、公共交通利用者数の増加 |
| 実施期間 | R7.4～ |

| | |
|-----------|--|
| 取組名 | 移動ニーズに応じた公共交通モードの提供 |
| 取組内容 | ・住民の移動ニーズを調査し、ニーズに応じた公共交通モードを検討し、自家用車から公共交通利用への転換を図る |
| 実施主体・協力主体 | 大和高田市、橿原市、五條市、御所市、葛城市、奈良県 |
| 実施効果 | 公共交通の利便性向上 |
| 実施期間 | R4.4～ |

| | |
|-----------|---|
| 取組名 | 停留所方式のデマンド交通の導入 |
| 取組内容 | ・集落が点在している市南部の公共交通手段を確保するため、利便性の高い停留所方式のデマンド交通を導入 |
| 実施主体・協力主体 | 御所市、奈良県 |
| 実施効果 | 公共交通の利便性向上 |
| 実施期間 | (実証運行)R5.1～R7.3 (本格運行)R7.4～ |

| | |
|-----------|---|
| 取組名 | 近鉄・JR御所駅の交通拠点としての機能強化 |
| 取組内容 | ・近鉄・JR御所駅が一体となった駅前空間の整備や御所中心市街地地区のまちづくりを進め、交通拠点としての機能強化を検討・実施する |
| 実施主体・協力主体 | 御所市、奈良県、交通事業者 |
| 実施効果 | 鉄道駅の交通拠点機能強化 |
| 実施期間 | R5.4～ |

| | |
|-----------|---|
| 取組名 | コミュニティバスデータのGTFS化に伴うオープンデータ化及び住民への周知 |
| 取組内容 | ・令和4年度に県で整備したコミュニティバスデータのGTFSデータ化を活用し、各種検索サイトへのデータ提供や、住民へのPRの実施 |
| 実施主体・協力主体 | 大和高田市、橿原市、五條市、御所市、葛城市、奈良県 |
| 実施効果 | コミュニティバスの利用者増加 |
| 実施期間 | R5.4～ |

| | |
|-----------|--|
| 取組名 | 自動継続型金額式ICカード定期券「CI-CA plus」の利用促進 |
| 取組内容 | ・令和5年3月より販売を開始している自動継続型金額式ICカード定期券「CI-CA plus」の普及のためのPRを実施 ・コミュニティバスに活用する取組を検討・実施 |
| 実施主体・協力主体 | 奈良交通 |
| 実施効果 | バス利用者増加、それに伴う鉄道利用者増加 |
| 実施期間 | R5.3～ |

| | |
|-----------|---|
| 取組名 | 中心市街地地区のまちづくりの検討 |
| 取組内容 | イオン五條店、五條バスセンターを含めたの中心市街地のまちづくりについて、地域の活性化やにぎわいの創出を目指し、実施主体が相互に協力しながら検討を進める |
| 実施主体・協力主体 | 五條市、奈良交通、商業施設、南都銀行 |
| 実施効果 | 公共交通の利便性向上、公共交通利用者数の増加 |
| 実施期間 | R4.12～ |

| | |
|-----------|--|
| 取組名 | 五條市利便増進実施計画に基づくコミュニティバス等の運行継続 |
| 取組内容 | ・「五條市地域公共交通利便増進実施計画」に基づき、五條バスセンターを結節点としたコミュニティバス・予約制乗合タクシーの運行を継続 |
| 実施主体・協力主体 | 五條市、奈良交通、五條二見交通、野原タクシー(五條市内タクシー会社)、奈良県、国 |
| 実施効果 | 公共交通の利便性向上、公共交通利用者数の増加 |
| 実施期間 | R4.9～ |

誘致している御所IC周辺企業向けの取組

| | |
|-----------|-------------------------------------|
| 取組名 | 企業誘致事業と連携した公共交通利用促進 |
| 取組内容 | ・企業誘致担当部局と連携し、通勤需要を取り込めるような取組の検討・実施 |
| 実施主体・協力主体 | 奈良県、御所市、奈良交通 |
| 実施効果 | 公共交通利用者数の増加 |
| 実施期間 | R6.4～ |

観光客向けの取組

| | |
|-----------|-------------------------------------|
| 取組名 | 観光客向けモデルルートの作成・展開 |
| 取組内容 | ・各観光施設等に公共交通で巡っていただくようなモデルルートの作成・展開 |
| 実施主体・協力主体 | 大和高田市、橿原市、五條市、御所市、葛城市、奈良県 |
| 実施効果 | 公共交通利用者数の増加 |
| 実施期間 | R5.4～ |

| | |
|-----------|---|
| 取組名 | 既存のコミュニティバスと周辺施設が連携した観光イベントの企画・実施 |
| 取組内容 | ・滞在型観光者の増を図るため、コミュニティバスと周辺施設が連携して観光イベントの企画・実施 |
| 実施主体・協力主体 | 大和高田市、橿原市、五條市、御所市、葛城市、奈良県、奈良交通 |
| 実施効果 | 公共交通を利用する滞在型観光者増 |
| 実施期間 | R5.4～ |

路線・地域の概要

- **関係市町村**
五條市、野迫川村、十津川村、大淀町
- **主な公共交通機関**
 - ・JR 和歌山線
 - ・近鉄 吉野線
 - ・奈良交通(八木新宮線)
 - ・五條・十津川地域連携コミュニティバス
 - ・その他コミュニティバス: ゴーちゃんバス(五條市)、村営バス(野迫川村)、十津川村営バス、よどりバス(大淀町)
 - ・デマンド交通: ゴーちゃんタクシー(五條市)、よどりタクシー(大淀町) 村営タクシー郷土号(十津川村)
- **主な利用データ※**
 - ・五條駅 乗車人員 972人/日(R5)
 - ・福神駅 乗車人員 2,192人/日(R5)
 - ・奈良交通八木新宮線: 診断指標達成(R6)
 - ・五條・十津川地域連携コミュニティバス: 5診断指標のうち、平均乗車密度、利用者1人あたりの行政負担額の2つが未達成(R3~)

※近鉄駅の場合は乗降人員を示している

- **関係情報**
 - ・南和地域の中核病院である「南奈良総合医療センター」及び「五條病院」が立地している
 - ・十津川村にて、現在運行している村営タクシー郷土号の運行範囲を村外に拡大することを検討中
 - ・R4.9月からR5.2月末まで、十津川村で路線バスで行けなかった観光地を巡る村内宿泊者用周遊観光バスを運行
 - ・奈良交通においてR4.10月から八木新宮特急バスの一部便の走行ルートと停車停留所を短縮する観光特急「やまかぜ」を運行開始
 - ・「やまかぜ」について、観光客向けに、「賀名生和田北口」停留所(賀名生梅林最寄停留所)に停車(R6.10.1~)
 - ・五條市山間部における市街地への移動手段確保のため、県・五條市にてデジタル施策の活用を目指した協議会を立ち上げ(R4.11月)
 - ・和歌山線五條駅、御所駅を着地とする日帰り旅行商品「駅プラン」発売(R6年秋)

令和9年度に目標とすべき状況(主な評価指標)

- ・八木新宮線: 診断指標5項目、計画輸送量15人以上の達成
- ・五條・十津川地域連携コミュニティバス: 診断指標5項目の達成

本エリアにおける公共交通の位置付けと課題

【位置付け】

- 八木新宮線の五條以南は観光利用が多く、以北は通学など生活利用が多い
- 五條・十津川地域連携コミュニティバスは、南部から乗換なしで通院できる唯一の便
- 路線沿線には、谷瀬の吊り橋、十津川温泉等の観光施設が立地

【課題】

- 自治体や事業者の運営努力だけでは路線の維持が難しく、地域公共交通確保維持改善事業により運行を確保・維持する必要がある
- 南和地域の中核病院である「南奈良総合医療センター」及び「五條病院」が立地しており、広域のアクセス向上に向けてどのように取り組みを行っていくか
- 魅力ある観光地を観光客が公共交通で広域的に巡るための、観光施策と連携した取組の実施
- 路線バスやコミュニティバスについて、ダイヤや乗り方について住民向けに周知が必要

取組の方向性

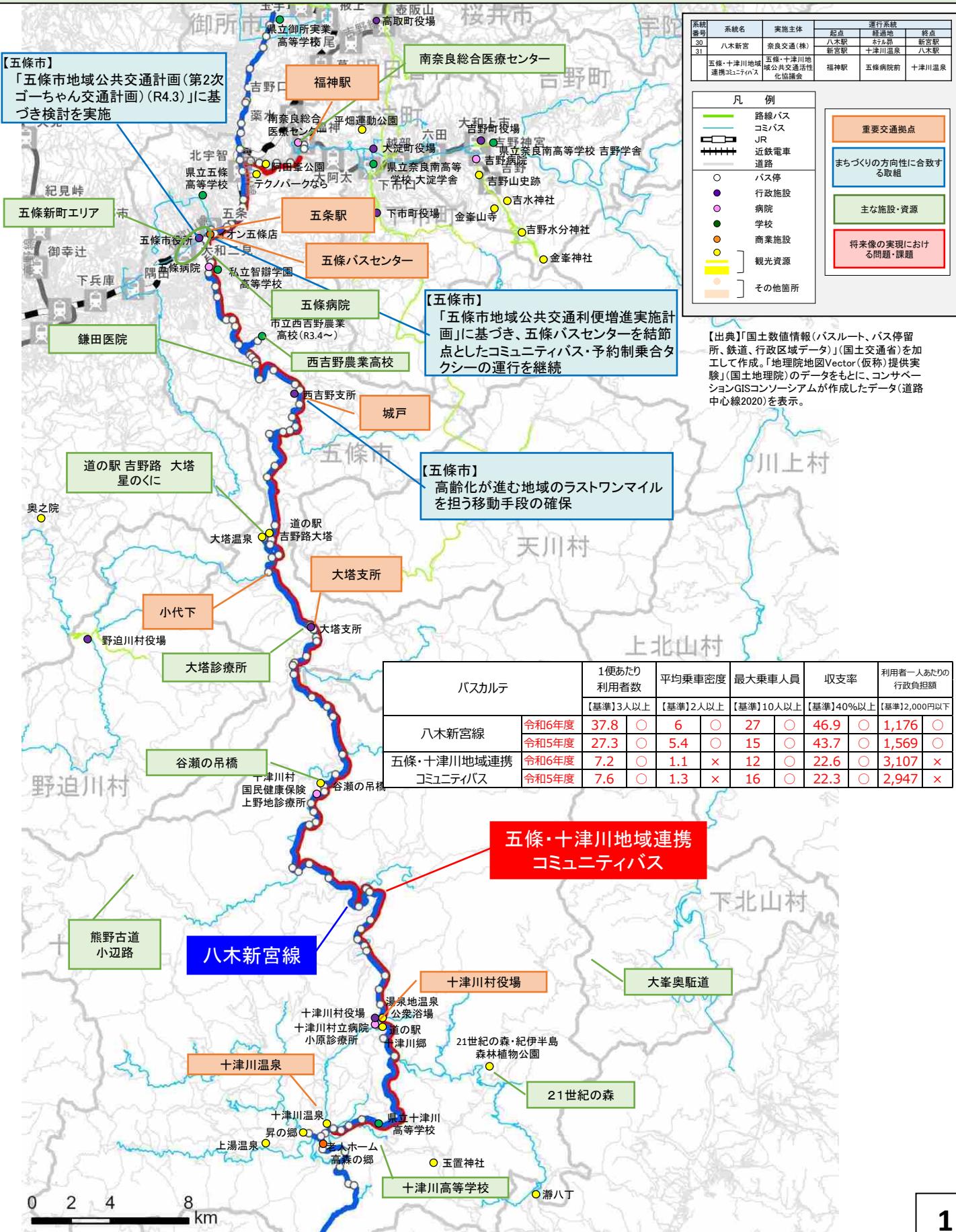
—住民向け—
【目標】通院・買い物等、必要な用事を車がなくても便利に

- 住民のニーズ把握とそのニーズに応じた交通モードの導入
- 路線バスやコミュニティバスについて、ダイヤや利用方法(自由乗降等)について効果的な広報の実施

—観光客向け—
【目標】公共交通を利用した滞在型観光のための取組実施

- 観光施設と連携した滞在プランの提供
- 拠点駅から観光施設までの移動手段の確保・充実
- 公共交通の利用に繋がる観光イベントの企画・発信を強化

まちづくりの方向性(イメージ図)



住民向けの取組

| | |
|-----------|--|
| 取組名 | 幹線系統とデマンドバスとのアクセス確保 |
| 取組内容 | ・幹線系統につながるデマンドバスを運行することにより、より便利に移動ができるような仕組みづくりを実施 |
| 実施主体・協力主体 | 野迫川村、奈良県 |
| 実施効果 | バス利用者増加 |
| 実施期間 | R5.4～ |

| | |
|-----------|--|
| 取組名 | 住民向けのワークショップを踏まえての公共交通網のさらなる改善の実施 |
| 取組内容 | 令和6年度移動に関する困りごと等に関するワークショップ(意見交換会)を市内各地区で実施。ワークショップの内容を踏まえ、住民と一体的に公共交通の課題を解決することに取り組む。 |
| 実施主体・協力主体 | 五條市、県 |
| 実施効果 | 公共交通の利便性向上、公共交通利用者数の増加 |
| 実施期間 | R7.4～ |

| | |
|-----------|---|
| 取組名 | 移動販売車による山間地域の買物支援 |
| 取組内容 | 買物が困難となっている山間地域において、高齢者に向けた暮らしのサポートとして、宅配サービス事業者と連携し、コミュニティバス等の運行と連動した移動販売車による買物支援を行い、地域住民の福祉の向上を図る |
| 実施主体・協力主体 | 五條市 |
| 実施効果 | 公共交通利用者数の増加 |
| 実施期間 | R4.12～ |

| | |
|-----------|---|
| 取組名 | 住民の公共交通の認知度向上による利用促進 |
| 取組内容 | ・乗り案内を作成・配布及び広報誌などを活用した地域住民への公共交通の情報提供を実施し、公共交通について認知度の向上を目指す |
| 実施主体・協力主体 | 五條市、野迫川村、十津川村、大淀町、奈良県、奈良交通 |
| 実施効果 | 公共交通利用者数の増加 |
| 実施期間 | R5.4～ |

| | |
|-----------|---|
| 取組名 | コミュニティバスデータのGTFS化に伴うオープンデータ化及び住民への周知 |
| 取組内容 | ・令和4年度に県で整備したコミュニティバスデータのGTFSデータ化を活用し、各種検索サイトへのデータ提供や、住民へのPRの実施 |
| 実施主体・協力主体 | 五條市、野迫川村、大淀町、奈良県 |
| 実施効果 | コミュニティバスの利用者増加 |
| 実施期間 | R5.4～ |

| | |
|-----------|------------------------|
| 観光客向けの取組 | |
| 取組名 | 十津川村周遊観光バス運行事業 |
| 取組内容 | ・各観光名所を巡れる周遊観光バスを運行する。 |
| 実施主体・協力主体 | 十津川村、奈良県 |
| 実施効果 | 公共交通利用者数の増加、宿泊客の増加 |
| 実施期間 | R6.4～ |

| | |
|-----------|--|
| 取組名 | 住民向けのモデルルートを作成・展開 |
| 取組内容 | ・病院、買い物にて公共交通の利用を促進するため、どの時間にバスに乗り、用事を済ませ、どの時間のバスに乗れば何時に帰宅できるといった住民向けのモデルコースを作成・展開 |
| 実施主体・協力主体 | 五條市、野迫川村、十津川村、大淀町、奈良県、奈良交通 |
| 実施効果 | 公共交通利用者数の増加 |
| 実施期間 | R5.4～ |

| | |
|-----------|--|
| 取組名 | 自動継続型金額式ICカード定期券「CI-CA plus」の利用促進 |
| 取組内容 | ・令和5年3月より販売を開始している自動継続型金額式ICカード定期券「CI-CA plus」の普及のためのPRを実施 ・コミュニティバスに活用する取組を検討・実施 |
| 実施主体・協力主体 | 奈良交通 |
| 実施効果 | バス利用者増加、それに伴う鉄道利用者増加 |
| 実施期間 | R5.3～ |

| | |
|-----------|--|
| 取組名 | 旧城戸駅舎周辺の魅力向上及び周遊観光の促進 |
| 取組内容 | ・「幻の五新鉄道跡」である旧路線バス専用道及び西吉野町城戸地内にある「城戸駅舎」を活用し、エリアの魅力向上及び観光客誘致を図るとともに、周遊性確保の取組を検討・実施 |
| 実施主体・協力主体 | 五條市、NPO法人、奈良県 |
| 実施効果 | 公共交通利用者数の増加 |
| 実施期間 | R5.4～ |

| | |
|-----------|--|
| 取組名 | 五條市利便増進実施計画に基づくコミュニティバス等の運行継続 |
| 取組内容 | ・「五條市地域公共交通利便増進実施計画」に基づき、五條バスセンターを結節点としたコミュニティバス・予約制乗合タクシーの運行を継続 |
| 実施主体・協力主体 | 五條市、奈良交通、五條二見交通、野原タクシー(五條市内タクシー会社)、奈良県、国 |
| 実施効果 | 公共交通の利便性向上、公共交通利用者数の増加 |
| 実施期間 | R4.9～ |

| | |
|-----------|--|
| 取組名 | 中心市街地地区のまちづくりの検討 |
| 取組内容 | イオン五條店、五條バスセンターを含めた中心市街地のまちづくりについて、地域の活性化やにぎわいの創出を目指し、実施主体が相互に協力しながら検討を進める |
| 実施主体・協力主体 | 五條市、奈良交通、商業施設、南都銀行 |
| 実施効果 | 公共交通の利便性向上、公共交通利用者数の増加 |
| 実施期間 | R4.12～ |

路線・地域の概要

- **関係市町村**
大淀町、下市町、黒滝村、天川村
 - **主な公共交通機関**
 - 近鉄 吉野線
 - 奈良交通(八木下市線 下市笠木線 下市天川線 洞川線)
 - その他コミュニティバス:よどりバス(大淀町)、黒滝ふれあいバス、スクールバスほほえみ号(天川村)
 - デマンド交通:よどりタクシー(大淀町)
 - **主な利用データ※**
 - 近鉄下市口駅 乗車人数 **2,028人/日(R5)**
 - 奈良交通八木下市線:5診断指標のうち、平均乗車密度、収支率の**2項目**が未達成(**R6**)
 - 奈良交通下市天川線:5診断指標達成(**R6**)
 - 奈良交通洞川線:5診断指標達成(**R6**)
- ※近鉄駅の場合は乗降人員を示している

- **関係情報**
 - 下市町、黒滝村、天川村では、村外への通院タクシー料金の一部を助成
 - 下市口駅でよどりバスに乗り継ぐことにより「南奈良総合医療センター」へのアクセスが可能
 - 空き校舎となる下市南小学校を利用して、民間と連携した**複合施設「KITO」**が令和6年7月にオープン
 - 空き校舎となる下市中学校を利用して地域交流拠点「**下市集学校**」が令和5年9月にオープン
 - プレオープンにあわせ、乗車券の配布を実施
 - 令和6年4月に観光案内、**体験型コンテンツ**の発着点となる洞川温泉ビジターセンターが開業
 - 下市町では免許返納をした方に奈交バスの路線バス乗車券を配布(**R6:200円×624枚**)

- **令和9年度に目標とすべき状況(主な評価指標)**
 - 八木下市線:診断指標5項目の達成

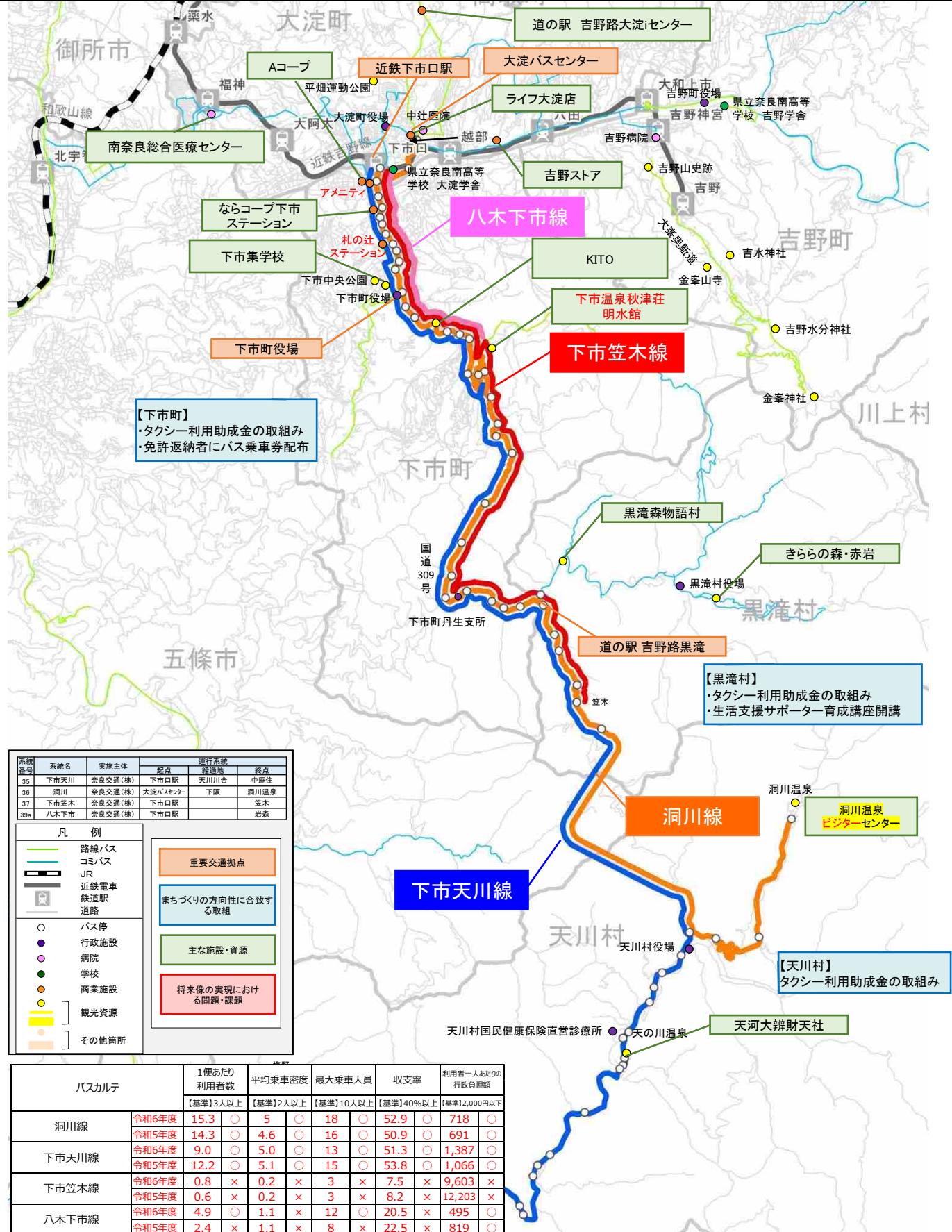
本エリアにおける公共交通の位置付けと課題

- 【位置付け】
 - 洞川温泉、黒滝森物語村、天河大辨財天社等、県内外から訪れる観光資源がある
 - 地域住民、特に免許を返納した高齢者等の通院(主に南奈良総合医療センター)や買い物に不可欠な移動手段
- 【課題】
 - 自治体や事業者の運営努力だけでは路線の維持が難しく、地域公共交通確保維持改善事業により運行を確保・維持する必要がある
 - 多くの観光客が自家用車で来訪しており、公共交通利用への仕掛けが必要
 - 観光客は天川村を訪れ、下市町、黒滝村は通過するだけとなっている
 - 南奈良総合医療センターへの移動は専ら自家用車となり、公共交通の利用が少ない

取組の方向性

- 住民向け—
- 【目標】通院・買い物等、必要な用事を車がなくても便利に
- 住民のニーズ把握とそのニーズに応じた交通モードの導入
- タクシーと路線バスの連携により、商業施設や中核病院へのアクセスの向上を検討
- 路線バス・コミュニティバス等のダイヤや利用方法について効果的な広報の実施
- 観光客向け—
- 【目標】公共交通を利用した滞在型観光のための取組実施
- 観光施設・公共交通が連携した滞在プラン・観光モデルルート企画の周知
- 公共交通の利用に繋がる観光イベントの企画・発信を強化
- 天川村を訪れた人に路線バス沿線町村のPRの実施

まちづくりの方向性(イメージ図)



: 重点取組事項

住民向けの取組

| | |
|-----------|---|
| 取組名 | 下市中学校空き校舎を活用した地域交流拠点「 下市集学校 」と公共交通の連携 |
| 取組内容 | ・下市中学校の空き校舎を活用し、令和5年9月にオープンした地域交流拠点として整備した施設に公共交通で来訪いただけるような取組として、公共交通で来訪された方に、帰りもしくは次の交流拠点までの乗車券の配布を行う |
| 実施主体・協力主体 | 下市町、奈良県、奈良交通 |
| 実施効果 | 公共交通利用者数の増加 |
| 実施期間 | R5.4～ |

| | |
|-----------|---|
| 取組名 | コミュニティバスデータのGTFS化に伴うオープンデータ化及び住民への周知 |
| 取組内容 | ・令和4年度に県で整備したコミュニティバスデータのGTFSデータ化を活用し、各種検索サイトへのデータ提供や、住民へのPRの実施 |
| 実施主体・協力主体 | 大淀町、奈良県 |
| 実施効果 | コミュニティバスの利用者増加 |
| 実施期間 | R6.4～ |

| | |
|-----------|--|
| 取組名 | 住民向けのモデルルートの作成・展開 |
| 取組内容 | ・病院、買い物にて公共交通の利用を促進するため、どの時間にバスに乗り、用事を済ませ、どの時間のバスに乗れば何時に帰宅できるといった住民向けのモデルコースを作成・展開 |
| 実施主体・協力主体 | 大淀町、下市町、黒滝村、天川村、奈良県 |
| 実施効果 | 公共交通利用者数の増加 |
| 実施期間 | R5.4～ |

| | |
|-----------|---|
| 取組名 | 住民の公共交通の認知度向上による利用促進 |
| 取組内容 | ・乗り方案内や自由乗降の案内等を作成・配布及び広報誌などを活用した地域住民への公共交通の情報提供を実施し、公共交通について認知度の向上を目指す |
| 実施主体・協力主体 | 大淀町、下市町、黒滝村、天川村、奈良県、奈良交通 |
| 実施効果 | 公共交通利用者数の増加 |
| 実施期間 | R5.4～ |

| | |
|-----------|--|
| 取組名 | 自動継続型金額式ICカード定期券「CI-CA plus」の利用促進 |
| 取組内容 | ・令和5年3月より販売を開始している自動継続型金額式ICカード定期券「CI-CA plus」の普及のためのPRを実施 |
| 実施主体・協力主体 | 奈良交通 |
| 実施効果 | バス利用者増加、それに伴う鉄道利用者増加 |
| 実施期間 | R5.3～ |

| | |
|-----------|--|
| 取組名 | 住民向けのモデルルートの作成・展開 |
| 取組内容 | ・病院、買い物にて公共交通の利用を促進するため、どの時間にバスに乗り、用事を済ませ、どの時間のバスに乗れば何時に帰宅できるといった住民向けのモデルコースを作成・展開 |
| 実施主体・協力主体 | 大淀町、下市町、黒滝村、天川村、奈良県 |
| 実施効果 | 公共交通利用者数の増加 |
| 実施期間 | R5.4～ |

その他の取組

| | |
|-----------|---------------------------|
| 取組名 | 貨客混載の取組強化 |
| 取組内容 | ・奈良交通洞川線において貨客混載の取組を強化する。 |
| 実施主体・協力主体 | 奈良交通、県 |
| 実施効果 | バスの生産性向上、物流網の効率化 |
| 実施期間 | R5.4～ |

観光客向けの取組

| | |
|-----------|---|
| 取組名 | 体験型複合施設「KITO FOREST MARKET SHIMOICHI」 と公共交通の連携 |
| 取組内容 | ・下市南小学校の空き校舎を活用し、令和6年 7月 に オープンした複合施設「KITO FOREST MARKET SHIMOICHI」 に公共交通で来訪いただけるような取組として、公共交通で来訪された方に、帰りもしくは次の交流拠点までの乗車券の配布を行う |
| 実施主体・協力主体 | 下市町、奈良県、奈良交通 |
| 実施効果 | 公共交通利用者数の増加 |
| 実施期間 | R5.4～ |

| | |
|-----------|---|
| 取組名 | 洞川温泉ビジターセンターと公共交通の連携 |
| 取組内容 | ・令和6年 4月 に オープンした洞川温泉ビジターセンター に、公共交通で来訪いただけるような取組の検討を実施 |
| 実施主体・協力主体 | 天川村、奈良県、奈良交通 |
| 実施効果 | 公共交通利用者数の増加 |
| 実施期間 | R5.4～ |

| | |
|-----------|---|
| 取組名 | 観光客向けモデルルート作成及び観光PRの実施 |
| 取組内容 | ・各観光施設等にバスの便と便との間で散策しながら天川村まで行くモデルルートの作成 ・デジタル技術等を活用した効果的な周知方法の検討・実施 |
| 実施主体・協力主体 | 大淀町、下市町、黒滝村、天川村、奈良県 |
| 実施効果 | 公共交通利用者数の増加 |
| 実施期間 | R5.4～ |

○南部Cにおける重点取組事項について

○観光客向けモデルルート作成及び観光PRの実施

| | |
|------------|--|
| 重点取組事項のねらい | これまで天川村にしか訪れていなかった観光客を観光モデルルートを作成し発信することで、大淀町、下市町、黒滝村の魅力的なスポットに呼び込むことで公共交通を利用する観光客の増加を図る |
| 実施効果 | 公共交通の観光利用増および周辺地域のにぎわい創出 |
| 活用する支援制度 | 公共交通基本計画推進支援事業 |

| | | 1年目(R6) | 2年目(R7) | 3年目(R8)～ |
|-------------------|--------------------------------|---|---|--|
| 実施内容 | | <ul style="list-style-type: none"> 観光スポットの洗い出し バスのダイヤ状況確認し、散策可能時間を把握 散策可能時間と観光スポットをあわせ、具体的なルートを検討 必要に応じて他の交通モードの追加を検討 地図に落とし込み、マップを作成 広報先の整理 アンケート調査の内容・手法検討 観光部局との調整 インセンティブの検討 | <ul style="list-style-type: none"> 観光客向けモデルルートの発信 広報活動 利用実態調査 利用者の声・アンケート調査 観光客向けモデルルートの発信(R6.10～) | <ul style="list-style-type: none"> 観光客向けモデルルートの発信【継続】 広報活動の実施 利用者の声、アンケート調査結果分析 次年度以降の事業について検討 |
| 役割分担 (※1:実施主体) | 奈良県 | <ul style="list-style-type: none"> 全体の進捗管理 アンケート調査の内容・手法検討 観光部局との連絡調整 インセンティブの検討 | <ul style="list-style-type: none"> 全体の進捗管理 広報活動の実施 アンケート調査の実施 インセンティブの検討 | <ul style="list-style-type: none"> 全体の進捗管理 利用促進策に対する支援 広報活動の実施 アンケート調査結果分析 次年度以降の事業について検討 |
| | ※1 大淀町 下市町 黒滝村 天川村 | <ul style="list-style-type: none"> 路線周辺の観光スポットの洗い出し バス停、観光スポット間や各観光スポット間の移動時間のと移送手段の検討 アンケート調査の手法検討 地図に落とし込み、マップを作成 広報先の整理 観光部局との調整 インセンティブの検討 | <ul style="list-style-type: none"> 広報活動の実施 アンケート調査の実施 利用者の声調査 | <ul style="list-style-type: none"> 広報活動の実施 特典付与等利用促進策の実施 マップを活用したさらなる利用促進の実施 |
| | 交通事業者 | <ul style="list-style-type: none"> よく訪れる観光スポット情報の提供 インセンティブにおける対応方法の検討 観光スポットの音声案内検討 | <ul style="list-style-type: none"> 路線の利用データの整理・分析(バス事業者) 広報活動の実施 ロコミ確認 アンケート調査の協力 | <ul style="list-style-type: none"> 路線の利用データの整理・分析(バス事業者) 広報活動の実施 |
| 関係する補助 | | 公共交通基本計画推進支援事業 | 公共交通基本計画推進支援事業 | 公共交通基本計画推進支援事業 |

路線・地域の概要

- **関係市町村**
吉野町、大淀町、下北山村、上北山村
川上村、東吉野村
- **主な公共交通機関**
 - ・近鉄 吉野線
 - ・南部地域連携コミュニティバス(ゆうゆうバス)
 - ・コミュニティバス:スマイルバス(吉野町)、やまぶきバス(川上村)、よどりバス(大淀町)、ふるさと号(東吉野村)、上北山村コミバス、しもきた号(下北山村)
 - ・デマンド交通:よどりタクシー(大淀町)
- **主な利用データ※**
 - ・近鉄福神駅 乗車人員 2,192人/日(R5)
 - ・近鉄大和上市駅 乗車人員 315人/日(R5)
 - ・近鉄下市口駅 乗車人員 2,028人/日(R5)
 - ・南部地域連携コミュニティバス:5診断指標のうち、平均乗車密度、最大乗車人員、利用者1人あたりの行政負担額が未達成(R3~)

- **関係情報**
- 【吉野町】
 - ・令和4年度にデマンドバス(スマイルバス)の本格運行を行い、デマンドバス、路線バスを含め、最適な交通体系の検討を実施
 - ・観光者向け2次交通として電動バイク11台購入
 - ・宮滝遺跡公園整備中
 - ・令和4年4月に新たなサテライトオフィス「YOSHINO GATEWAY」がオープン
- 【上北山村】
 - ・村内コミバスを再編
 - ・ヒルクライム大台ヶ原は、村人口より多くの人々が訪れる自転車ロードレース
- 【川上村】
 - ・デマンド乗合タクシーニコニコ号に新車両を導入し、運行エリアを村内全域に拡大(R4~)

※近鉄駅の場合は乗降人員を示している

令和9年度に目標とすべき状況

- ・南部地域連携コミュニティバス、よどりバス、やまぶきバス:診断指標5項目の達成
- ・よどりバス、やまぶきバス:個別に定めた目標値の達成

本エリアにおける公共交通の位置付けと課題

- 【位置付け】
 - 南部地域連携コミュニティバス、よどりバス、やまぶきバスを運行し、地域内や広域の移動手段を提供しており、地域の足として必要不可欠な路線となっている
 - 沿線に観光地が点在しており、観光需要も見込める
- 【課題】
 - 自治体や事業者の運営努力だけでは路線の維持が難しく、地域公共交通確保維持改善事業により運行を確保・維持する必要がある
 - 自家用車を利用できない人の移動ニーズを満足する交通手段の提供が必要
 - 特別乗車券やコミュニティバスを利用した観光など、情報発信の工夫が必要
 - 運賃収入以外の収益源の確保についても検討する必要がある
 - **新たな乗務宿泊所の確保**

取組の方向性

—住民向け—
【目標】通院・買い物等、必要な用事を車がなくても便利に

- 住民のニーズ把握とそのニーズに応じた交通モードの導入
- 無人駅の活用方法の検討・実施

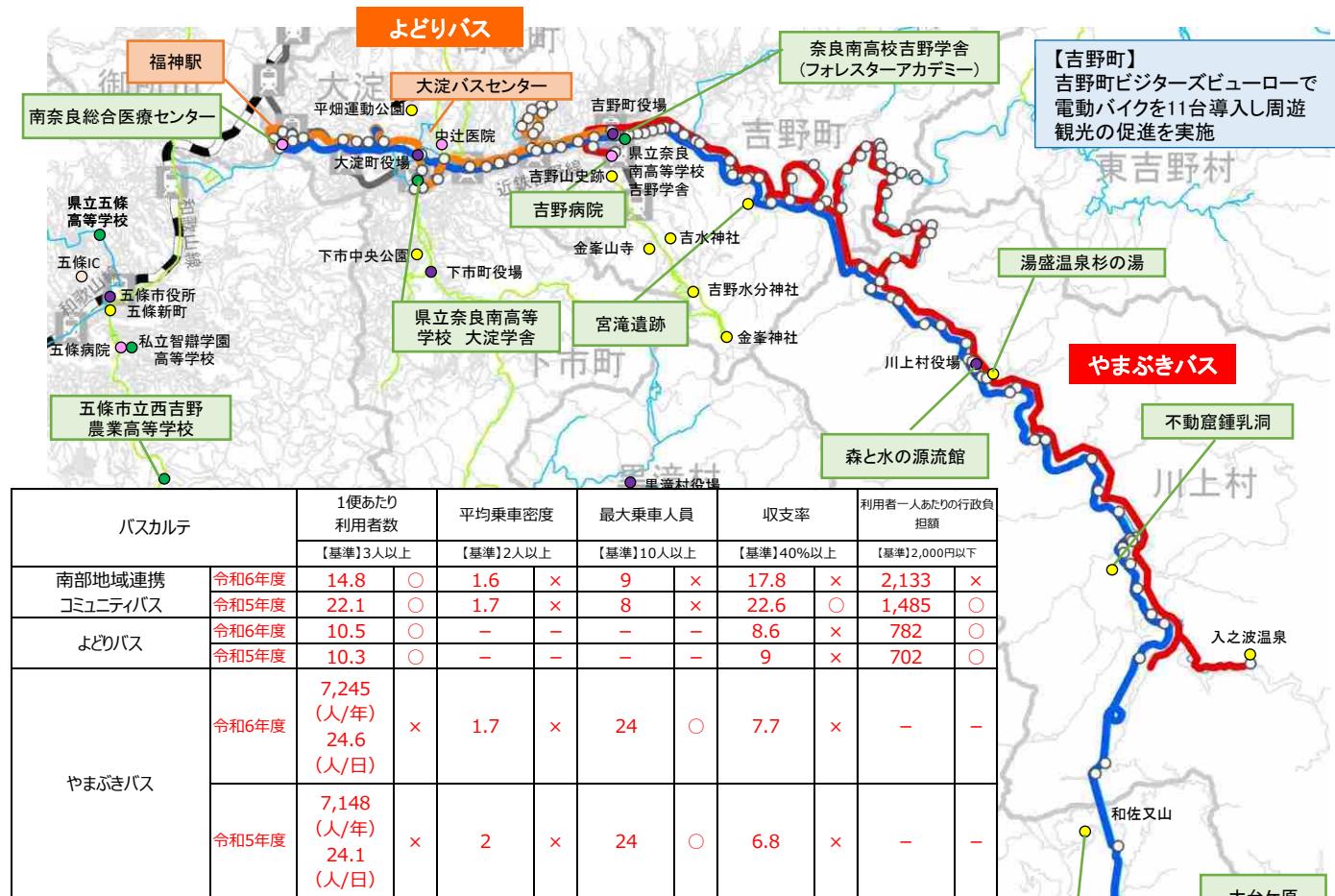
—観光客向け—
【目標】公共交通を利用した観光のための取組実施

- 滞在型観光を視野にいた公共交通を利用した観光モデルルート of 立案・周知
- 観光地・温泉施設等と連携した公共交通利用促進策の検討・実施
- 観光地から村中心地に来訪者を引き込む取組の実施

—その他—
【目標】ゆうゆうバスで運賃収入以外の収益源を確保し、収支改善や地域の魅力発信を実現する。

- 車体へのラッピング広告による地域情報の発信
- 貨客混載による地域の特産品の販路拡大

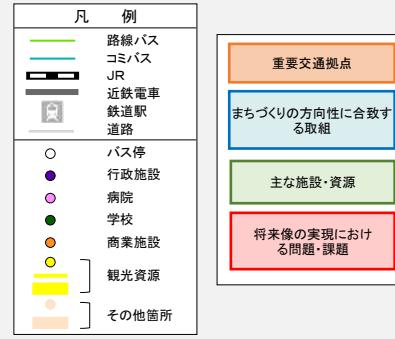
まちづくりの方向性(イメージ図)



| バスカテゴリー | | 1便あたり利用者数 | 平均乗車密度 | | 最大乗車人員 | | 収支率 | | 利用者一人あたりの行政負担額 | | |
|----------------|-------|---------------------------|----------|-----------|-----------|--------------|-----|------|----------------|-------|---|
| | | 【基準】3人以上 | 【基準】2人以上 | 【基準】10人以上 | 【基準】40%以上 | 【基準】2,000円以下 | | | | | |
| 南部地域連携コミュニティバス | 令和6年度 | 14.8 | ○ | 1.6 | × | 9 | × | 17.8 | × | 2,133 | × |
| | 令和5年度 | 22.1 | ○ | 1.7 | × | 8 | × | 22.6 | ○ | 1,485 | ○ |
| よどりバス | 令和6年度 | 10.5 | ○ | - | - | - | × | 8.6 | × | 782 | ○ |
| | 令和5年度 | 10.3 | ○ | - | - | - | × | 9 | × | 702 | ○ |
| やまぶきバス | 令和6年度 | 7,245 (人/年) 24.6 (人/日) | × | 1.7 | × | 24 | ○ | 7.7 | × | - | - |
| | 令和5年度 | 7,148 (人/年) 24.1 (人/日) | × | 2 | × | 24 | ○ | 6.8 | × | - | - |

※1: 路線の目標値としてR9年度時点で利用者数37,000人/年、収支率10%を設定。
 ※2: 路線の目標値としてR9年度時点で利用者数7,200人/年・26人/日、収支率9%を設定。

| 系統番号 | 系統名 | 実施主体 | 運行系統 | 起点 | 経遊地 | 終点 |
|------|----------------|-----------------|----------|---------|-----|----|
| 201 | 南部地域連携コミュニティバス | 南部地域公共交通活性化協議会 | 大淀バスセンター | 湯盛温泉杉の湯 | 下桑原 | |
| 201a | 南部地域連携コミュニティバス | 南部地域公共交通活性化協議会 | 福神駅 | 湯盛温泉杉の湯 | 下桑原 | |
| 202 | やまぶきバス | 川上村地域公共交通活性化協議会 | 吉野病院 | 園棟 | 入之波 | |
| 203 | やまぶきバス | 川上村地域公共交通活性化協議会 | 吉野病院 | 尾尾 | 入之波 | |
| 204 | よどりバス | 大淀町地域公共交通会議 | 福神駅 | 大淀町役場 | 上市駅 | |



南部地域連携コミュニティバス沿線において公共交通を利用する観光客の増加を図るため、観光モデルコースを作成し発信する必要がある。

【出典】「国土数値情報(バスルート、バス停留所、鉄道、行政区画データ)」(国土交通省)を加工して作成。「地理院地図Vector(仮称)提供実験」(国土地理院)のデータをもとに、コンサベーションGISコンソーシアムが作成したデータ(道路中心線2020)を表示。



: 重点取組事項

住民向けの取組

| | |
|-----------|--|
| 取組名 | 鉄道駅舎の利活用 |
| 取組内容 | ・吉野町、奈良県、近鉄で駅舎利活用について意見交換を実施し、駅舎の利活用に向けた取組を検討・実施 |
| 実施主体・協力主体 | 吉野町、奈良県、近畿日本鉄道 |
| 実施効果 | 無人駅等における安心・安全や利便性の確保 |
| 実施期間 | R4.11～ |

| | |
|-----------|--|
| 取組名 | 村内コミュニティバスの再編 |
| 取組内容 | ・上北山村内のコミュニティバスの利用状況を踏まえた運行形態等を検討し、村内コミュニティバスの再編に向けた取組を検討・実施 |
| 実施主体・協力主体 | 上北山村、奈良県 |
| 実施効果 | 住民の移動ニーズに応じた公共交通の実現 |
| 実施期間 | R4.9～ |

| | |
|-----------|---|
| 取組名 | コミュニティバスデータのGTFS化に伴うオープンデータ化及び住民への周知 |
| 取組内容 | ・令和4年度に県で整備したコミュニティバスデータのGTFSデータ化を活用し、各種検索サイトへのデータ提供や、住民へのPRの実施 |
| 実施主体・協力主体 | 大淀町、上北山村、川上村、東吉野村、奈良県 |
| 実施効果 | コミュニティバスの利用者増加 |
| 実施期間 | R5.4～ |

観光客向けの取組

| | |
|-----------|--------------------------------------|
| 取組名 | 電動バイクの活用による周遊促進 |
| 取組内容 | ・観光者向け2次交通として、電動バイクを導入し、観光地間の周遊促進を図る |
| 実施主体・協力主体 | 一般社団法人吉野デジタルズビューロー |
| 実施効果 | 公共交通を利用した観光周遊の促進 |
| 実施期間 | R5.2～ |

| | |
|-----------|--|
| 取組名 | 観光モデルコースの発信による観光の公共交通利用促進 |
| 取組内容 | ・ゆうゆうバスを利用した観光のモデルコースを作成するとともに、公共交通を利用した観光客に対し、温泉等施設の特典付与等により利用促進を図る |
| 実施主体・協力主体 | 吉野町、大淀町、下北山村、上北山村、川上村、東吉野村、奈良県、交通事業者、バス協会 |
| 実施効果 | 観光客の公共交通利用増 |
| 実施期間 | R4.12～ |

| | |
|-----------|--|
| 取組名 | 観光地と地域を結ぶ公共交通の確保 |
| 取組内容 | ・観光スポットと村の中心部(例:大台ヶ原～上北山村内、前鬼～下北山村内)を結ぶ公共交通が乏しいため、村に来た観光客に中心部へも足を運んでもらうための方策を検討・実施 |
| 実施主体・協力主体 | 上北山村、下北山村、奈良県 |
| 実施効果 | 観光客の滞在時間増による地域振興 |
| 実施期間 | R5.4～ |

その他の取組

| | |
|-----------|--|
| 取組名 | 地域情報の発信による公共交通の利用促進 |
| 取組内容 | ・地域の情報を様々な媒体で発信し、沿線地域の知名度を向上させ、公共交通の利用者拡大を図る |
| 実施主体・協力主体 | 南部地域連携協議会 |
| 実施効果 | 沿線地域の知名度向上、広告収入による収支改善 |
| 実施期間 | R4.9～ |

| | |
|-----------|---|
| 取組名 | 新たな貨客混載の実施 |
| 取組内容 | ・近鉄やバス等において、沿線地域の特産品等を都市部へ運ぶ「貨客混載」を実施し、新たな需要開拓と荷物搬送の効率化を図る取組を検討 |
| 実施主体・協力主体 | 吉野町、大淀町、下北山村、上北山村、川上村、東吉野村、奈良県、交通事業者、生産者 |
| 実施効果 | 特産品の販路拡大、鉄道やバスの収支改善 |
| 実施期間 | R5.4～ |

| | |
|-----------|--|
| 取組名 | サイクルトレイン導入による公共交通の利用促進 |
| 取組内容 | ・近鉄吉野線において、新たな交通モードが提供できるよう、サイクルトレインの導入に向けた取組を検討 |
| 実施主体・協力主体 | 吉野町、大淀町、下北山村、上北山村、川上村、東吉野村、奈良県、交通事業者 |
| 実施効果 | 複合的な交通サービスの展開による利用促進 |
| 実施期間 | R5.4～ |

○南部Dにおける重点取組事項について

○ 観光モデルコースの発信による観光の公共交通利用促進

| | |
|------------|---|
| 重点取組事項のねらい | 南部地域連携コミュニティバス沿線において、観光モデルコースを作成し発信することで、公共交通を利用する観光客の増加を図る |
| 実施効果 | 南部地域連携コミュニティバスをはじめとする公共交通の観光利用増 |
| 活用する支援制度 | 運輸事業振興助成交付金、公共交通基本計画推進支援事業 |

| | | 1年目(R5) | 2年目(R6) | 3年目(R7)～ |
|-------------------|--------------------------------------|---|--|--|
| 実施内容 | | <ul style="list-style-type: none"> 観光モデルコースの内容検討 マップ化へ向けたデザイン、レイアウト等の調整(県→バス協会の運輸事業振興助成交付金の活用を想定) 特典等の内容・付与方法の検討 | <ul style="list-style-type: none"> 観光周遊マップの発行 利用実態調査 広報活動の実施 | <ul style="list-style-type: none"> マップを活用したさらなる利用促進の実施 利用実態調査 広報活動の実施 |
| 役割分担 (※1:実施主体) | 奈良県 | <ul style="list-style-type: none"> 全体の進捗管理 バス協会への交付金事業実施 | <ul style="list-style-type: none"> 全体の進捗管理 利用促進策に対する支援 | <ul style="list-style-type: none"> 全体の進捗管理 利用促進策に対する支援 |
| | ※1 大淀町 吉野町 川上村 下北山村 上北山村 | <ul style="list-style-type: none"> 各町村における観光モデルコースの検討 モデルコース発信に係る観光部局との調整 特典付与等利用促進策の検討 | <ul style="list-style-type: none"> 広報活動の実施 特典付与等利用促進策の検討 マップを活用したさらなる利用促進の検討 | <ul style="list-style-type: none"> 広報活動の実施 特典付与等利用促進策の検討 マップを活用したさらなる利用促進の実施 |
| | 交通事業者 | <ul style="list-style-type: none"> 特典付与等における対応方法の検討 例)バス車内で乗車証明を発行できるかetc. | <ul style="list-style-type: none"> 路線の利用データの整理・分析(バス事業者) 広報活動の実施 | <ul style="list-style-type: none"> 路線の利用データの整理・分析(バス事業者) 広報活動の実施 |
| | 奈良県 バス協会 | <ul style="list-style-type: none"> マップ発行に向けての調整 | <ul style="list-style-type: none"> マップの配布、情報発信 | <ul style="list-style-type: none"> マップの配布・増刷等の調整、情報発信 |
| 関係する補助 | | <ul style="list-style-type: none"> 運輸事業振興助成交付金 | <ul style="list-style-type: none"> 運輸事業振興助成交付金 | <ul style="list-style-type: none"> 運輸事業振興助成交付金 公共交通基本計画推進支援事業 |

運行年度は、前年10月～当年9月

路線・地域の概要

●関係市町村

奈良市、生駒市

●主な公共交通機関

- 近鉄 京都線 けいはんな線 奈良線
- 奈良交通(富雄庄田線 学園前相楽線)
- コミュニティバス: たけまる号(生駒市)

●主な利用データ

[主要駅乗車人員]

- 高の原駅 30,128人/日 (R5)
- 富雄駅 25,101人/日 (R5)
- 白庭台 9,022人/日 (R5)
- 学研北生駒 5,848人/日 (R5)
- 学研奈良登美ヶ丘 13,653人/日 (R5)

[バス路線情報]

- 富雄庄田線: 5診断指標のうち、平均乗車密度、収支率の2指標が未達 (R3~)

※近鉄駅の場合は乗降人員を示している

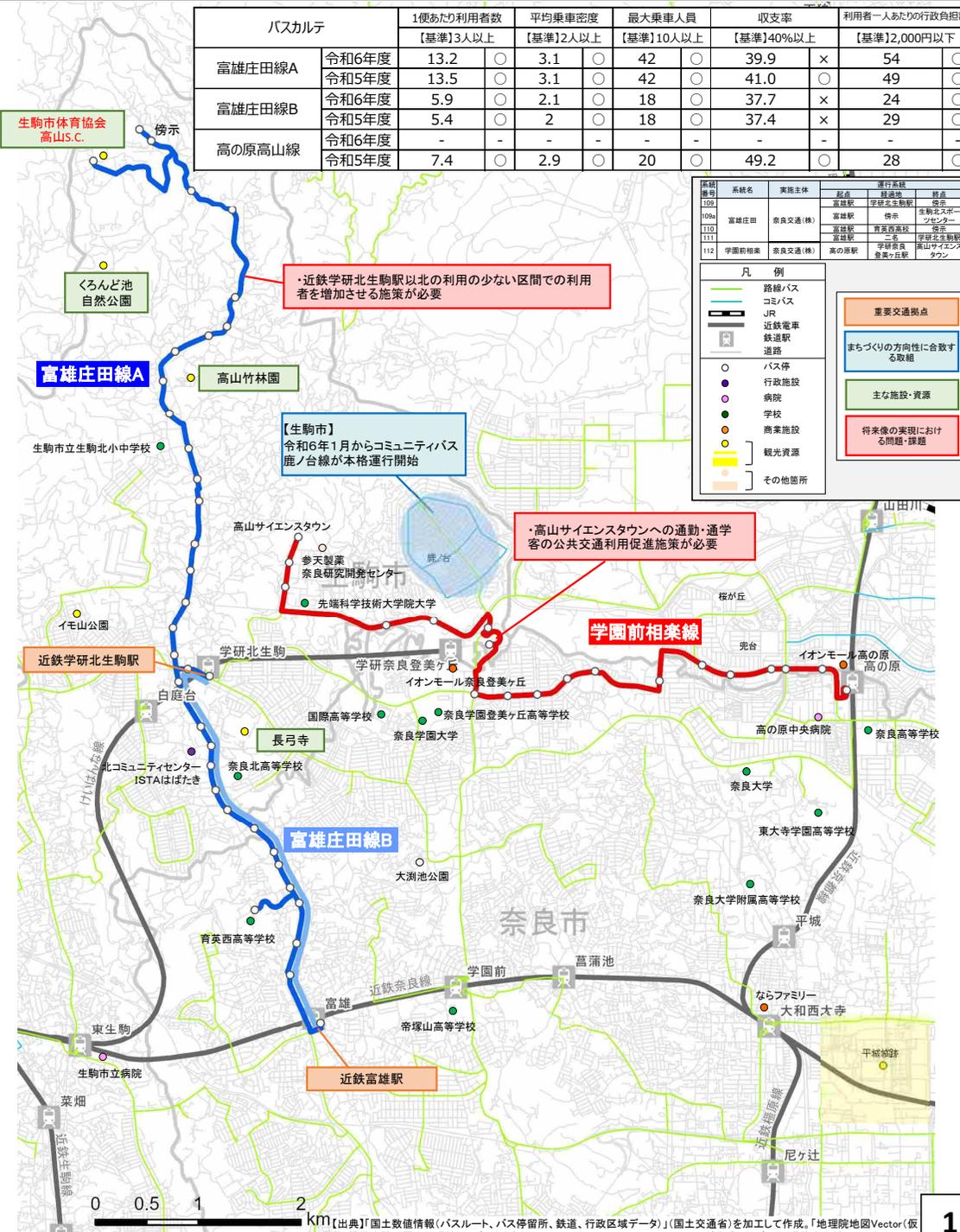
●令和9年度に目標とすべき状況(主な評価指標)

- 富雄庄田線: 診断指標5項目の達成

●関係情報

- 近鉄けいはんな線の沿線には多くの学校が所在
- 富雄庄田線では、奈良交通より路線の見直しに向けた申し入れがあったが、今後地域公共交通利便増進実施計画を策定するとともに、生駒市が財政支援することで運行の継続が決まった
- 沿線の高山サイエスタウンには、奈良先端科学技術大学院大学など7団体が立地
- 高山第2工区の整備が予定(R4.6月にマスタープラン策定)
- 富雄庄田線北部では、くろんど池自然公園や生駒市体育協会高山S.C.など、家族向けの施設が所在
- 高山竹林園のイベント(高山竹あかり)には約3,000名が来園
- 県では生駒市のコミュニティバスにおけるクロスセクター効果の算定を実施

まちづくりの方向性(イメージ図)



本エリアにおける公共交通の位置付けと課題

【位置付け】

- 富雄庄田線は高山地区の沿線住民にとって貴重な足となっている
- 学園前相楽線は、京都方面から奈良先端科学技術大学院大学へ向かう一定の利用が見られる

【課題】

- 事業者の運営努力だけでは路線の維持が難しく、地域公共交通確保維持改善事業により運行を確保・維持する必要がある(富雄庄田線)
- 富雄庄田線において運行の効率化と利便性向上による利用者の増加による収支改善を図り、持続可能な路線とする必要がある
- 沿線に所在する家族向けの施設や大学、企業へのアクセスに公共交通を利用してもらうための取組が必要

取組の方向性

—住民向け— 【目標】通院・買い物等における公共交通手段の確保・維持

- 住民(利用層/非利用層)のニーズ把握

—沿線の施設利用者向け—

【目標】沿線への通勤・通学者の公共交通手段の確保・維持

- 駅から大学・企業等までの移動手段の確保・充実
- 通勤・通学者の移動ニーズに応じた公共交通の充実

—観光客向け— 【目標】くろんど池自然公園、高山竹林園の利用者の公共交通利用増

- 拠点駅から観光施設までの移動手段の確保・情報発信

【出典】国土数値情報(バスルート、バス停留所、鉄道、行政区域データ)(国土交通省)を加工して作成。「地理院地図Vector(仮称)提供実験(国土地理院)のデータをもとに、コンサベーションGISコンソーシアムが作成したデータ(道路中心線2020)を表示。

: 重点取組事項

住民向けの取組

| | |
|-----------|---|
| 取組名 | コミュニティバスデータのGTFS化に伴うオープンデータ化及び住民への周知 |
| 取組内容 | ・令和4年度に県で整備したコミュニティバスデータのGTFSデータ化を活用し、各種検索サイトへのデータ提供や、住民へのPRの実施 |
| 実施主体・協力主体 | 奈良市、生駒市、奈良県 |
| 実施効果 | コミュニティバスの利用者増加 |
| 実施期間 | R5.4～ |

| | |
|-----------|--|
| 取組名 | 富雄庄田線の見直しによる、高山地区住民の移動手段確保 |
| 取組内容 | ・ 運行の効率化と利便性向上による利用者の増加で収支改善を図り、持続可能な路線に再編するため、アンケート調査や利用実績等に基づき地域公共交通利便増進実施計画を策定する |
| 実施主体・協力主体 | 生駒市、奈良県、奈良交通 |
| 実施効果 | 地域住民の利便性向上、公共交通利用率の増加 |
| 実施期間 | R6.4～ |

| | |
|-----------|---|
| 取組名 | 住民の公共交通の認知度向上による利用促進 |
| 取組内容 | ・広報誌などを活用した地域住民への公共交通の情報提供を実施し、公共交通について認知度の向上を目指す |
| 実施主体・協力主体 | 生駒市、奈良交通 |
| 実施効果 | 公共交通利用者数の増加 |
| 実施期間 | R5.4～ |

| | |
|-----------|---|
| 取組名 | バス停留所の整備 |
| 取組内容 | バス停留所の利用環境を向上させるため、富雄庄田線のバス停留所の上屋を整備する。 |
| 実施主体・協力主体 | 生駒市・奈良交通 |
| 実施効果 | バス停留所の利用環境向上、路線バスの利用促進 |
| 実施期間 | R6.1～ |

| | |
|-----------|--|
| 取組名 | ノンステップバスの導入 |
| 取組内容 | ・当該地域を運行する路線バスのバリアフリー対応を促進するため、路線バス車両のノンステップバスへの更新に係る経費の一部を市が補助する、 |
| 実施主体・協力主体 | 奈良市・奈良交通 |
| 実施効果 | 公共交通の移動等円滑化の促進 |
| 実施期間 | R5.4～ |

| | |
|-----------|--|
| 取組名 | 自動継続型金額式ICカード定期券「CI-CA plus」の利用促進 |
| 取組内容 | ・令和5年3月より販売を開始している自動継続型金額式ICカード定期券「CI-CA plus」の普及のためのPRを実施 ・コミュニティバスに活用する取組を検討・実施 |
| 実施主体・協力主体 | 奈良交通 |
| 実施効果 | バス利用者増加、それに伴う鉄道利用者増加 |
| 実施期間 | R5.3～ |

| | |
|-----------|--|
| 取組名 | 生駒市地域公共交通計画の再策定 |
| 取組内容 | ・ 現行の生駒市地域公共交通計画策定時から社会情勢や生駒市の現状が大きく変化しているため、現行の計画を廃止した上で、改めて現状と課題を分析し、アンケート調査などを実施して新たに計画を策定する |
| 実施主体・協力主体 | 生駒市 |
| 実施効果 | 公共交通の利用増、利便性向上 |
| 実施期間 | R7.4～ |

観光客向けの取組

| | |
|-----------|--|
| 取組名 | イベント等における公共交通利用促進 |
| 取組内容 | ・くろんど池自然公園、高山竹林園、長弓寺のあじさいなど沿線の魅力発信を進めるとともに、公共交通を利用したアクセスについてPRする |
| 実施主体・協力主体 | 生駒市、奈良県、奈良交通 |
| 実施効果 | 観光客の公共交通利用促進 |
| 実施期間 | R5.4～ |

沿線の施設利用者向けの取組

| | |
|-----------|---|
| 取組名 | 通勤・通学における公共交通利用の拡大 |
| 取組内容 | ・高山サイエンスタウンへの通勤・通学需要の取込みに向けた利用促進策の検討・実施 |
| 実施主体・協力主体 | 奈良交通・奈良先端科学技術大学院大学・高山地区立地施設等連絡協議会・奈良県・奈良市・生駒市 |
| 実施効果 | 通勤・通学における路線バスの利用増 |
| 実施期間 | R5.4～ |

| | |
|-----------|--|
| 取組名 | 学生への公共交通のPR |
| 取組内容 | ・留学生も多い奈良先端科学技術大学院大学の学生に対し、鉄道や路線バスといった公共交通について知ってもらい、利用促進を行う |
| 実施主体・協力主体 | 奈良先端科学技術大学院大学、交通事業者 |
| 実施効果 | 学生の公共交通利用増 |
| 実施期間 | R5.4～ |

○北西部Aにおける重点取組事項について

○富雄庄田線の見直しによる、高山地区住民の移動手段確保

| | |
|------------|-------------------------|
| 重点取組事項のねらい | 高山地区における持続的な公共交通サービスの提供 |
| 実施効果 | 地域住民の利便性向上、公共交通利用率の増加 |
| 活用する支援制度 | 公共交通基本計画推進支援事業 |

| | | 1年目(R6) | 2年目(R7) | 3年目(R8)～ |
|--------|-------|---|---|--|
| 実施内容 | | <ul style="list-style-type: none"> アンケート調査や利用実績等に基づくデータ分析(移動ニーズ把握・潜在需要の把握) バス路線利用増加に向けた課題整理 路線再編を見据えた、住民の移動ニーズをカバーする交通モードと利用促進策の検討 | <ul style="list-style-type: none"> アンケート調査や利用実績等に基づくデータ分析(移動ニーズ把握・潜在需要の把握) バス路線利用増加に向けた課題整理 上記を踏まえた地域公共交通利便増進実施計画の策定 | <ul style="list-style-type: none"> 再編路線の運行開始 広報活動の実施 利用促進策の検討 |
| 役割分担 | 奈良県 | <ul style="list-style-type: none"> 収支改善策の検討 路線再編に係る調査検討の支援 | <ul style="list-style-type: none"> 収支改善策の検討 路線再編に係る調査検討の支援 | <ul style="list-style-type: none"> 広報の支援 利用実態調査の実施支援 |
| | 生駒市 | <ul style="list-style-type: none"> 利用促進策の検討 利用実態調査等を実施し、既存路線の収支改善や最適な公共交通の再構築を検討 | <ul style="list-style-type: none"> 利用促進策の検討 利用実態調査等を実施し、地域公共交通利便増進実施計画を策定 | <ul style="list-style-type: none"> 地域公共交通利便増進実施計画に基づく利用促進策の実施 財政支援の実施 広報等による周知の支援 |
| | 交通事業者 | <ul style="list-style-type: none"> 路線の利用データの整理・分析 | <ul style="list-style-type: none"> 路線の利用データの整理・分析 | <ul style="list-style-type: none"> 地域公共交通利便増進実施計画に基づく運行の実施 再編後の路線利用データの整理・分析 |
| 関係する補助 | | <ul style="list-style-type: none"> 公共交通基本計画推進支援事業 | <ul style="list-style-type: none"> 公共交通基本計画推進支援事業 | <ul style="list-style-type: none"> 公共交通基本計画推進支援事業 |

運行年度は、前年10月～当年9月

路線・地域の概要

●関係市町村

奈良市、大和郡山市

●主な公共交通機関

- JR 大和路線
- 近鉄 奈良線 京都線 橿原線
- 奈良交通(郡山若草台線)
- コミュニティバス:元気城下町号・元気治道号・元気平和号(大和郡山市)
- 施設バス:奈良県総合医療センターによる無料送迎バス(R2.1月~)

●主な利用データ

- JR郡山駅 乗車人員 4,882人/日(R5)
- 近鉄郡山駅 乗車人員 15,974人/日(R5)
- 奈良交通郡山若草台線:診断指標達成

●関係情報

- 令和5年2月、近鉄郡山駅移設に関する役割分担や費用負担につき、基本協定を県・大和郡山市・近鉄の三者で締結

※近鉄駅の場合は乗降人員を示している

- 奈良県総合医療センターの移転開院に伴い、同センターの玄関口に乗り入れ(H30.3月~)およびバス情報表示装置の設置(H30.3月)
- 郡山城跡は国史跡として指定された(R4.11月)
- 郡山城跡公園は、さくら名所100選に選ばれており、毎年、春に開催される「大和郡山お城まつり」には多くの人々が訪れる
- (公財)郡山城史跡・柳沢文庫保存会による大和郡山市城内町の修景整備工事(番屋等の改修等)が令和4年4月に完成し、カフェや休憩所として利用できるようになった
- 踏切による渋滞の緩和対策として、都市計画道路城廻線の整備が進んでいる
- 令和5年10月の路線再編により、路線短縮
- 令和8年に郡山駅前にシェアサイクルポート設置(R6~)
- JR大和路線に有料座席サービス「快速うれシート」設定(R5.10月~)、通勤特急「らくらくやまと」運行(R6.3~)
- 大河ドラマ(NHK)「豊臣兄弟!」の放送が決定

●令和9年度に目標とすべき状況(主な評価指標)

- 郡山若草台線:診断指標5項目の達成

本エリアにおける公共交通の位置付けと課題

【位置付け】

- 奈良県総合医療センターと近鉄郡山駅を結ぶ路線
- 奈良県総合医療センターが路線バスの乗り換え拠点となっており、その施設への行き来に一定数の利用があるが、買い物や通勤・通学等での利用が主
- 城廻線の整備により交通アクセスが向上

【課題】

- 自治体や事業者の運営努力だけでは路線の維持が難しく、地域公共交通確保維持改善事業により運行を確保・維持する必要がある
- 沿線に施設が少ないため、路線の維持に向け、公共交通の利用促進策が課題

取組の方向性

ー奈良県総合医療センターへの通院者向けー

【目標】公共交通を利用した通院需要の取込

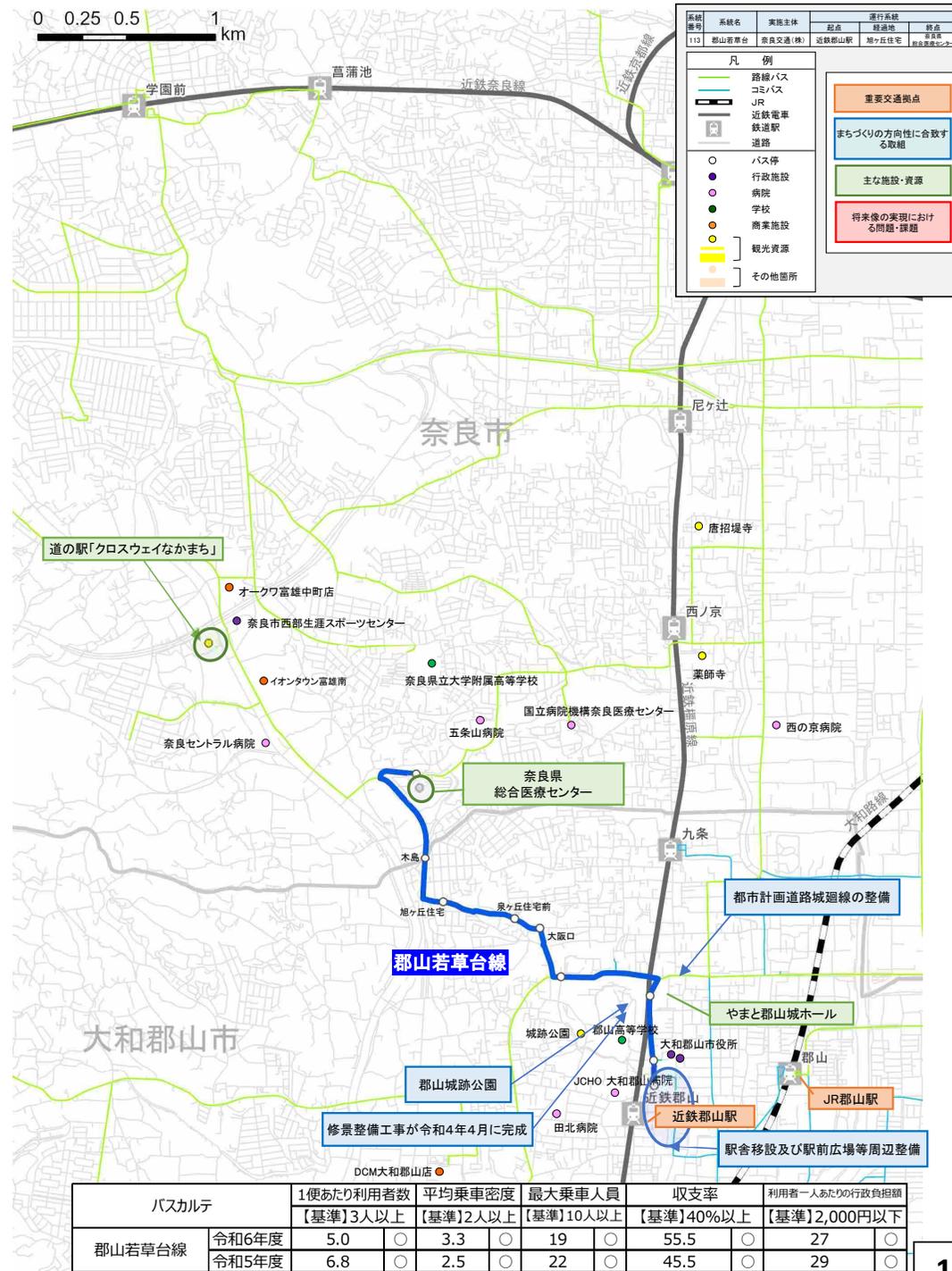
- 来訪者のニーズ把握
- 来訪者に対する公共交通利用促進施策の実施
- 奈良県総合医療センターが運行するバスとの役割分担の見直し
- 病院に勤務されている人に対する公共交通利用促進施策の実施

ー住民向けー

【目標】買い物・通勤・通学等、必要な用事を車がなくても便利に

- プロジェクトと連携した公共交通利用促進策の検討・実施
- 通勤・通学需要を取り込むための効果的な広報の実施

まちづくりの方向性(イメージ図)



【出典】「国土数値情報(バスルート、バス停留所、鉄道、行政区画データ)」(国土交通省)を加工して作成。「地理院地図Vector(仮称)提供実験」(国土地理院)のデータをもとに、コンサベーションGISソリューションが作成したデータ(道路中心線2020)を表示。

奈良県総合医療センター通院者向けの取組

| | |
|-----------|--|
| 取組名 | 病院通院者に対する公共交通利用促進策の実施 |
| 取組内容 | ・通院者の移動ニーズを調査・分析し、利用に便利な交通手段として認知されるよう、広報誌やSNS等を通じて住民へ周知する取組の検討・実施 |
| 実施主体・協力主体 | 奈良市、大和郡山市、奈良県 |
| 実施効果 | 公共交通利用者数の増加 |
| 実施期間 | R5.4～ |
| 取組名 | 病院に勤務されている人に対する公共交通利用促進策の実施 |
| 取組内容 | ・病院への通勤需要を取り込むため、病院に勤務されている人向けの公共交通利用促進策の検討・実施 |
| 実施主体・協力主体 | 奈良市、大和郡山市、奈良県、奈良交通 |
| 実施効果 | バス利用者増加 |
| 実施期間 | R5.4～ |

住民向けの取組

| | | | |
|-----------|---|-----------|--|
| 取組名 | 近鉄郡山駅移設事業の推進 | 取組名 | コミュニティバスデータのGTFS化に伴うオープンデータ化及び住民への周知 |
| 取組内容 | ・令和5年2月に締結した近鉄郡山駅移設に関する基本協定に基づき、駅舎移設及び駅前広場等周辺整備を推進 ・駅移設、バスターミナル整備と連動した公共交通アクセスの改善 | 取組内容 | ・令和4年度に県で整備したコミュニティバスデータのGTFSデータ化を活用し、各種検索サイトへのデータ提供や、住民へのPRの実施 |
| 実施主体・協力主体 | 大和郡山市、奈良県、交通事業者 | 実施主体・協力主体 | 大和郡山市、奈良県 |
| 実施効果 | 公共交通の利便性向上 | 実施効果 | コミュニティバスの利用者増加 |
| 実施期間 | R5.4～ | 実施期間 | R5.4～ |
| 取組名 | 通勤・通学需要の取込 | 取組名 | 自動継続型金額式ICカード定期券「CI-CA plus」の利用促進 |
| 取組内容 | ・朝の通勤・通学時間と運行ダイヤを調整し、通勤・通学需要の取込を図るため、広報誌やSNS等を活用 | 取組内容 | ・令和5年3月より販売を開始している自動継続型金額式ICカード定期券「CI-CA plus」の普及のためのPRを実施 ・コミュニティバスに活用する取組を検討・実施 |
| 実施主体・協力主体 | 奈良交通、奈良市、大和郡山市、奈良県 | 実施主体・協力主体 | 奈良交通 |
| 実施効果 | バス利用者増加 | 実施効果 | バス利用者増加、それに伴う鉄道利用者増加 |
| 実施期間 | R5.4～ | 実施期間 | R5.3～ |
| 取組名 | 公共交通の乗り継ぎ利便性の向上 | 取組名 | 地域公共交通計画の策定 |
| 取組内容 | ・路線バスの乗り継ぎ拠点である奈良県総合医療センターにおいて、公共交通の利便性向上に向けた取組を検討・実施（郡山若草台線の再編時には協議により乗り継ぎ時間の調整等を実施） | 取組内容 | ・地域分析等を通じて、持続可能な公共交通の将来像を示す地域公共交通計画を策定する。 |
| 実施主体・協力主体 | 奈良市、奈良交通 | 実施主体・協力主体 | 大和郡山市、奈良県 |
| 実施効果 | 公共交通の利便性向上 | 実施効果 | 地域公共交通の維持・活性化 |
| 実施期間 | R5.10～ | 実施期間 | R6.4～ |
| 取組名 | デマンド交通の実証運行 | | |
| 取組内容 | ・交通空白地の解消を目的に、デマンド交通の実証運行を行い効果検証を行う。 | | |
| 実施主体・協力主体 | 大和郡山市、奈良県 | | |
| 実施効果 | 交通空白地の解消 | | |
| 実施期間 | R7.4～ | | |

路線・地域の概要

●関係市町村

香芝市、平群町、三郷町、上牧町、王寺町、河合町

●主な公共交通機関

- ・JR 大和路線 和歌山線
- ・近鉄 田原本線 生駒線
- ・奈良交通(信貴山線 白鳳台住宅線 三郷線)
- ・コミュニティバス:カシバス(香芝市)、あいばす(平群町)、上牧町コミュニティバス、すな丸号(河合町)

●主な利用データ

- ・乗車人員 JR畠田駅 1,405人/日(R5)
- JR王寺駅 21,476人/日(R5)
- JR三郷駅 1,578人/日(R5)
- 近鉄信貴山下駅 2,059人/日(R5)
- 近鉄王寺駅 8,432人/日(R5)
- 近鉄新王寺駅 6,178人/日(R5)
- ・奈良交通信貴山線、白鳳台住宅線、三郷線
:診断指標5項目達成

※近鉄駅の場合は乗降人員を示している

●関係情報

- ・年間15万人が訪れる信貴山のどか村に温泉施設「信貴の湯」がオープン(R3.10月)
- ・王寺駅周辺のまちづくりが進行中
- ・王寺町美しヶ丘地区で電動カーを運行(R5.3月~)
- ・三郷町ではインバウンド需要に備えたデジタル版パンフレットの作成および三郷町版MaaSの導入を検討
- ・三郷町のFSS35キャンパスがオープン(R5)
- ・令和6年度にJR三郷駅~FSS35キャンパスで自動運転実証実験(R7.1.9~R7.1.15)
- ・香芝市コミュニティバスの利用者の範囲が拡大し、観光客や市外在住の方も利用可能に(R3.4月~)
- ・畠田駅前整備
- ・法隆寺や信貴山などを巡る「WEST NARA わんデイパス」発売(奈良交通)
- ・JR大和路線に有料座席サービス「快速うれシート」設定(R5.10月~)、通勤特急「らくラクやまと」運行(R6.3~)

●令和9年度に目標とすべき状況(主な評価指標)

- ・信貴山線、白鳳台住宅線、三郷線:診断指標5項目の達成

本エリアにおける公共交通の位置付けと課題

【位置付け】

- このエリアにあるバス路線の大半は、地域住民や免許返納した高齢者の通院や買い物利用に不可欠な路線となっており、利用者の大半は王寺駅に向かう通勤・通学者となっている
- 王寺駅を拠点に、周辺各地域への公共交通網が構築されている
- 白鳳台住宅線、三郷線について、昼間の利用者数が少なくなっている

【課題】

- 自治体や事業者の運営努力だけでは路線の維持が難しく、地域公共交通確保維持改善事業により運行を確保・維持する必要がある
- 交通手段として、公共交通利用への仕掛けが必要
- 高齢者に対してバス停までの移手段の確保
- 法隆寺、馬見丘陵公園といった集客力のあるスポットと信貴山、達磨寺をつなぐ公共交通の利用促進施策が必要

取組の方向性

—住民向け—

【目標】交通便利性の高い利用環境の構築

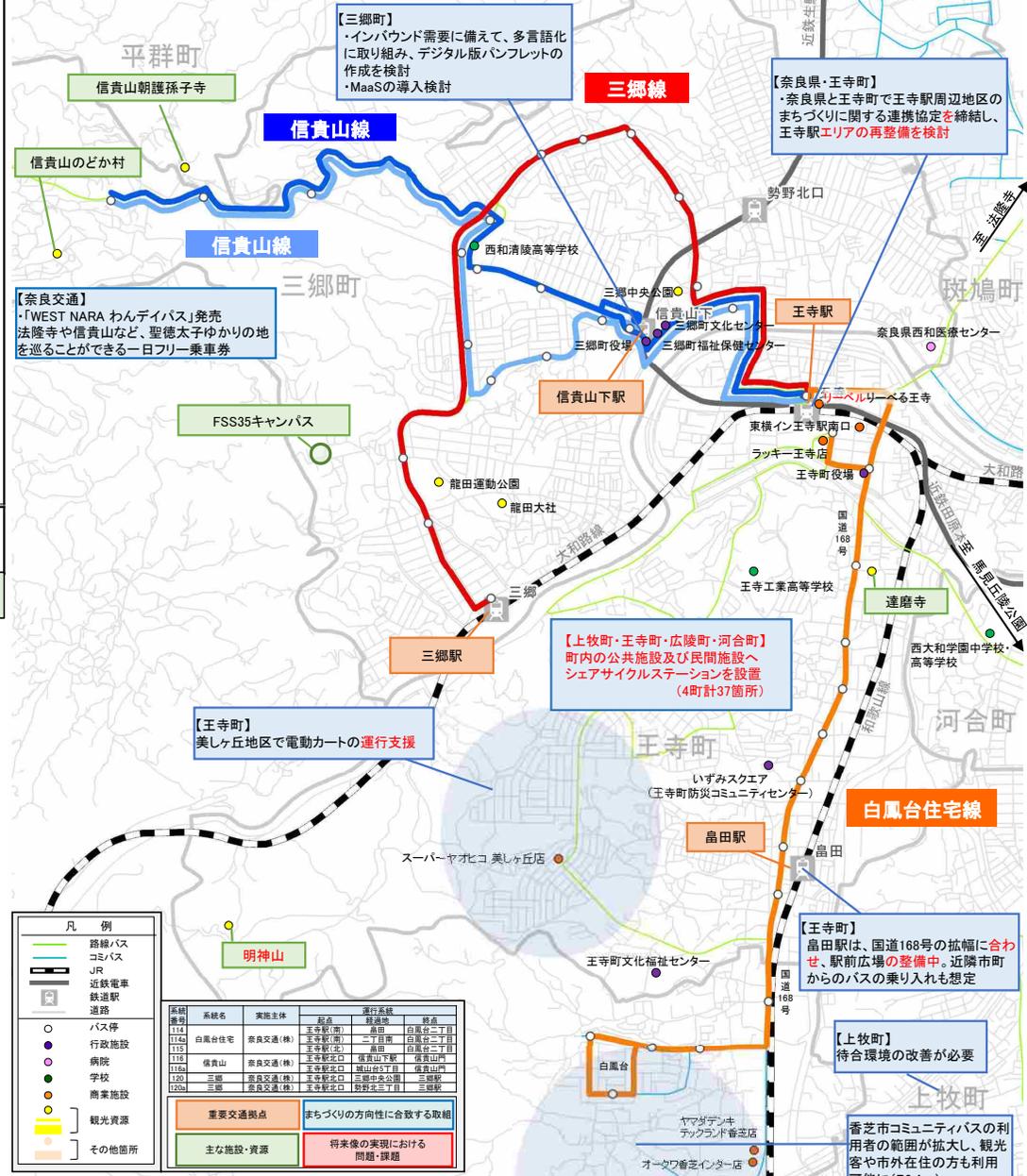
- 住民のニーズ把握とそのニーズに応じた交通モードの導入
- 王寺駅・畠田駅を拠点に利便性の高い二次交通の構築
- 公共交通利用促進を図るため、ラストワンマイル対策の取組の検討・実施
- 通勤・通学者の公共交通利用促進に向けた取組の実施

—観光客向け—

【目標】公共交通を利用した観光客増に向けた取組強化

- 公共交通を利用した観光モデルルートのお案・周知
- 観光施設と連携した公共交通利用促進策の検討・実施
- 法隆寺や馬見丘陵公園と信貴山や達磨寺等の双方に訪れてもらうための情報発信

まちづくりの方向性(イメージ図)



| バスカルテ | 1便あたり利用者数 | | 平均乗車密度 | | 最大乗車人員 | | 収支率 | | 利用者一人あたりの行政負担額 | | |
|--------|-----------|------|----------|-----|-----------|----|-----------|------|----------------|----|---|
| | 【基準】3人以上 | ○ | 【基準】2人以上 | ○ | 【基準】10人以上 | ○ | 【基準】40%以上 | ○ | 【基準】2,000円以下 | ○ | |
| 白鳳台住宅線 | 令和6年度 | 7.3 | ○ | 2.8 | ○ | 17 | ○ | 45.9 | ○ | 10 | ○ |
| | 令和5年度 | 6.4 | ○ | 2.8 | ○ | 19 | ○ | 47.6 | ○ | 9 | ○ |
| 信貴山線 | 令和6年度 | 13.0 | ○ | 4.7 | ○ | 50 | ○ | 67.2 | ○ | 36 | ○ |
| | 令和5年度 | 13.4 | ○ | 5.2 | ○ | 60 | ○ | 74.9 | ○ | 40 | ○ |
| 三郷線 | 令和6年度 | 11.6 | ○ | 3.9 | ○ | 22 | ○ | 63.7 | ○ | 45 | ○ |
| | 令和5年度 | 11.4 | ○ | 3.6 | ○ | 20 | ○ | 60.5 | ○ | 41 | ○ |

住民向けの取組

| | |
|-----------|-----------------------------------|
| 取組名 | 王寺駅を核とした効率的な公共交通ネットワークの構築 |
| 取組内容 | ・王寺駅を拠点とした効率的なモビリティについて検討・実施 |
| 実施主体・協力主体 | 香芝市、平群町、三郷町、上牧町、王寺町、河合町、奈良県、交通事業者 |
| 実施効果 | 公共交通利用者数の増加 |
| 実施期間 | R5.4～ |

| | |
|-----------|---|
| 取組名 | 田原本線におけるサイクルトレインの実施 |
| 取組内容 | ・令和4年度に開始したサイクルトレインを継続実施 ・公共交通の利用促進や観光誘客にも活用 |
| 実施主体・協力主体 | 近畿日本鉄道、奈良県 |
| 実施効果 | 鉄道利用者数の増加 |
| 実施期間 | R4.4～ |

| | |
|-----------|--|
| 取組名 | コミュニティバスおよびデマンド交通の利用状況の分析を行い、利用促進策を検討 |
| 取組内容 | ・コミュニティバスおよびデマンド交通の利用実績や香芝市地域公共交通計画に掲げる評価指標の根拠データを基礎資料として、協議会での関連な審議を図るため、利用状況や目的に応じた施策の効果検証等について分析・整理する |
| 実施主体・協力主体 | 香芝市、奈良県 |
| 実施効果 | 公共交通利用者数の増加 |
| 実施期間 | R5.4～ |

| | |
|-----------|---|
| 取組名 | バス停留所に新たに上屋を設置 |
| 取組内容 | ・バス停設置基準に基づいた歩道幅員を確保できる箇所について、町内の主要施設が集中する区域を中心に歩道の形状に合わせた上屋を設置する |
| 実施主体・協力主体 | 上牧町、奈良県 |
| 実施効果 | 公共交通利用者数の増加 |
| 実施期間 | R5.4～ |

| | |
|-----------|---|
| 取組名 | 公道用電動カートの運行(グリーンスローモビリティ) |
| 取組内容 | ・美しヶ丘自治会内において、公道用電動カートを運行(グリーンスローモビリティ) |
| 実施主体・協力主体 | 美しヶ丘自治会、王寺町 |
| 実施効果 | 新たな交通網の形成、高齢者の外出機会増加 |
| 実施期間 | R5.3～ |

| | |
|-----------|---|
| 取組名 | 畠田駅前広場の整備に合わせた公共交通との連携 |
| 取組内容 | ・王寺町で検討中の畠田駅前広場の整備に合わせて、路線バスの効率化を図るなど、利便性の向上を検討 |
| 実施主体・協力主体 | 王寺町、香芝市、上牧町、河合町、奈良県、交通事業者 |
| 実施効果 | 公共交通利用者数の増加 |
| 実施期間 | R5.4～ |

| | |
|-----------|--|
| 取組名 | 高齢者への移動支援策 ～平群町デマンド型乗合タクシー～ |
| 取組内容 | ・現在の公共交通機関等では支援できない交通弱者の移動支援のため、デマンド型乗合タクシーを実施 |
| 実施主体・協力主体 | 平群町、奈良県 |
| 実施効果 | 公共交通利用者数の増加 |
| 実施期間 | R3.10～ |

| | |
|-----------|---|
| 取組名 | コミュニティバスデータのGTFS化に伴うオープンデータ化及び住民への周知 |
| 取組内容 | ・令和4年度に県で整備したコミュニティバスデータのGTFSデータ化を活用し、各種検索サイトへのデータ提供や、住民へのPRの実施 |
| 実施主体・協力主体 | 香芝市、上牧町、河合町、奈良県 |
| 実施効果 | コミュニティバスの利用者増加 |
| 実施期間 | R5.4～ |

| | |
|-----------|------------------------------|
| 取組名 | バス停の待合環境の向上 |
| 取組内容 | ・国道168号の拡幅整備に合わせて、順次バス停上屋を整備 |
| 実施主体・協力主体 | 王寺町、奈良県 |
| 実施効果 | 利便性の向上 |
| 実施期間 | R3.4～ |

| | |
|-----------|--|
| 取組名 | 王寺駅南駅前広場の再整備 |
| 取組内容 | ・一般車両、公共交通、歩行者の動線の分離や待合環境の向上等を目的として、王寺駅南駅前広場の再整備を検討・実施 |
| 実施主体・協力主体 | 王寺町、JR西日本 |
| 実施効果 | 利便性及び安全性の向上 |
| 実施期間 | R30.4～ |

| | |
|-----------|--|
| 取組名 | 自動継続型金額式ICカード定期券「CI-CA plus」の利用促進 |
| 取組内容 | ・令和5年3月より販売を開始している自動継続型金額式ICカード定期券「CI-CA plus」の普及のためのPRを実施 ・コミュニティバスに活用する取組を検討・実施 |
| 実施主体・協力主体 | 奈良交通 |
| 実施効果 | バス利用者増加、それに伴う鉄道利用者増加 |
| 実施期間 | R5.3～ |

観光客向けの取組

| | |
|-----------|---|
| 取組名 | 観光客向けモデルルート作成及び観光PRの実施 |
| 取組内容 | ・各観光施設等に公共交通で巡っていただくようなモデルルートの作成 ・デジタル技術等を活用した効果的な周知方法の検討・実施 |
| 実施主体・協力主体 | 香芝市、平群町、三郷町、上牧町、王寺町、河合町、奈良県 |
| 実施効果 | 公共交通利用者数の増加 |
| 実施期間 | R5.4～ |

| | |
|-----------|---|
| 取組名 | アフターコロナを見据えた公共交通を利用した観光についての広報 |
| 取組内容 | ・当エリアは観光利用が比較的多いため、アフターコロナを見据えた公共交通を活用した周遊観光について検討・実施 |
| 実施主体・協力主体 | 香芝市、平群町、三郷町、上牧町、王寺町、河合町、奈良県、交通事業者 |
| 実施効果 | 公共交通利用者数の増加 |
| 実施期間 | R5.4～ |

| | |
|-----------|--|
| 取組名 | シェアサイクルによる周遊促進 |
| 取組内容 | ・来訪者に北葛城郡4町を周遊してもらえるよう、町内の公共施設及び民間施設へシェアサイクルステーションを設置。 |
| 実施主体・協力主体 | 上牧町、王寺町、広陵町、河合町、ライフニジュウイチ(株)、OpenStreet(株) |
| 実施効果 | 回遊性の向上、ラストワンマイルの確保(公共交通の補完) |
| 実施期間 | R6.11～ |

路線・地域の概要

●関係市町村

奈良市、大和郡山市、斑鳩町、安堵町、川西町、王寺町

●主な公共交通機関

- JR 大和路線・桜井線(万葉まほろば線) 近鉄 奈良線、橿原線
- 奈良交通 奈良法隆寺線、王寺シャープ線

●主な利用データ

- JR奈良駅 乗車人員 16,910人/日(R5) ・近鉄奈良駅 乗車人員 54,783人/日(R5)
- JR法隆寺駅 乗車人員 6,524人/日(R5) ・近鉄王寺駅 乗車人員 8,432人/日(R5)
- JR郡山駅 乗車人員 4,882人/日(R5) ・近鉄郡山駅 乗車人員 15,974人/日(R5)
- JR王寺駅 乗車人員 21,476人/日(R5) ・近鉄筒井駅 乗車人員 7,149人/日(R5)
- 奈良交通奈良法隆寺線、王寺シャープ線: 診断指標5項目の達成

●関係情報

- 近鉄郡山駅の移設に関し、令和5年2月に基本協定締結
- 大和中央田園都市構想の推進に関し、県と磯城郡3町が包括的な協定を締結(R5.2月)
- 奈良公園バスターミナル(H31)、奈良県コンベンションセンターバスターミナル(R2)を設置し、観光客等の受入拠点の整備
- 令和3年度に「まちの玄関口」結崎駅前広場が完成し、交通結節点としての機能が強化

- 周辺に3つの鉄道駅が立地している昭和工業団地では、駅からの二次アクセスの向上を目指して、市町村と企業との連携や企業間の連携を検討する
- 郡山城跡は国史跡として指定された(R4.11月)
- サイクルアンドバスライド実証実験(R4~)
- 通勤特急「らくらくやまと」運行(R6.3~)、特急「まほろば」号定期運行化(R7.3月)
- JR大和路線に有料座席サービス「快速うれシート」設定(R5.10月~)※R6.3月~から拡大
- 奈良・京終・帯解・郡山駅前にシェアサイクルポート設置(R6~)
- 近鉄とJRを利用して、2つ世界遺産(法隆寺地域の仏教建造物、古都奈良の文化財)を同時に巡ると「WESTER POINT」をプレゼントCP実施(R6.7~12)
- 新西和医療センターの整備推進に関して、県と県立病院機構、斑鳩町の3者で協定を締結(R6.2月)
- 令和8年に大河ドラマ(NHK)「豊臣兄弟!」の放送が決定

●令和9年度に目標とすべき状況(主な評価指標)

- 奈良法隆寺線、王寺シャープ線: 診断指標5項目の達成

まちづくりの方向性(イメージ図)

本エリアにおける公共交通の位置付けと課題

【位置付け】

- 奈良主要観光拠点である奈良市中心部と法隆寺という観光施設が立地している
- 奈良市内を訪れている観光客の約6割が鉄道で来訪している(令和元年度)
- 川西町、安堵町周辺には、工業団地が整備

【課題】

- 自治体や事業者の運営努力だけでは路線の維持が難しく、地域公共交通確保維持改善事業により運行を確保・維持する必要がある
- 観光地間のシームレスな移動手段の確保をどのように実現するか
- 川西町、安堵町周辺の工業団地への公共交通による通勤の促進が必要
- 平行する奈良交通奈良法隆寺線と大和路線の連携が必要

取組の方向性

—住民向け—

【目標】通院・買い物等、必要な用事を車がなくても便利に

- 住民のニーズ把握とそのニーズに応じた交通モードの導入
- 公共交通利用促進を図るため、ラストワンマイル対策の取組の検討・実施

—観光客向け—

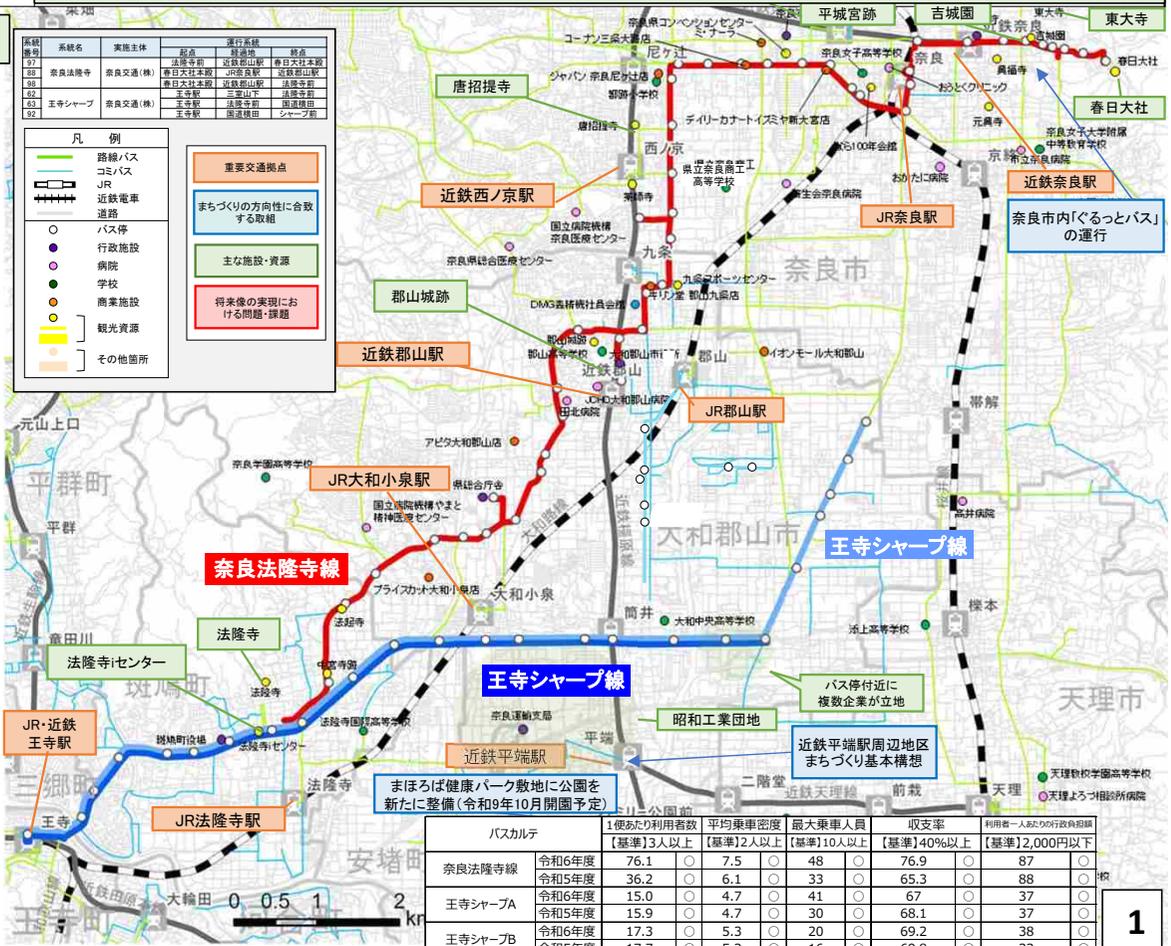
【目標】公共交通を利用した観光のための取組実施

- 公共交通を利用した観光モデルルート の立案・周知
- 観光施設と連携した公共交通利用促進策の検討・実施
- 鉄道、バスが連携した来訪者を引き込む取組の実施

—企業向け—

【目標】公共交通を利用した通勤のための取組実施

- 企業誘致担当と連携した公共交通利用促進の取組実施
- 企業誘致事業と連携した公共交通利用者拡大に向けた仕掛けの検討
- 公共交通を利用した通勤のPR及びインセンティブ付与の検討



住民向けの取組

| | |
|-----------|--------------------------------------|
| 取組名 | 王寺駅を核とした効率的な公共交通ネットワークの構築 |
| 取組内容 | ・交通結節点である王寺駅を拠点とした効率的なモビリティについて検討・実施 |
| 実施主体・協力主体 | 奈良市、大和郡山市、斑鳩町、安堵町、川西町、王寺町、奈良県、交通事業者 |
| 実施効果 | 公共交通利用者数の増加 |
| 実施期間 | R5.4～ |

| | |
|-----------|-------------------------------|
| 取組名 | 近鉄郡山駅移設に伴う公共交通アクセスの検討 |
| 取組内容 | ・近鉄郡山駅の移設計画と連動した公共交通アクセス方法の検討 |
| 実施主体・協力主体 | 大和郡山市、交通事業者、奈良県 |
| 実施効果 | 公共交通の利便性向上 |
| 実施期間 | R7.4～ |

| | |
|-----------|--|
| 取組名 | 自動継続型金額式ICカード定期券「CI-CA plus」の利用促進 |
| 取組内容 | ・令和5年3月より販売を開始している自動継続型金額式ICカード定期券「CI-CA plus」の普及のためのPRを実施 ・コミュニティバスに活用する取組を検討・実施 |
| 実施主体・協力主体 | 奈良交通 |
| 実施効果 | バス利用者増加、それに伴う鉄道利用者増加 |
| 実施期間 | R5.3～ |

| | |
|-----------|---|
| 取組名 | コミュニティバスデータのGTFS化に伴うオープンデータ化及び住民への周知 |
| 取組内容 | ・令和4年度に県で整備したコミュニティバスデータのGTFSデータ化を活用し、各種検索サイトへのデータ提供や、住民へのPRの実施 |
| 実施主体・協力主体 | 奈良市、大和郡山市、斑鳩町、安堵町、川西町、奈良県 |
| 実施効果 | コミュニティバスの利用者増加 |
| 実施期間 | R5.4～ |

観光客向けの取組

| | |
|-----------|--|
| 取組名 | 観光イベント開催に伴う利便性の高い公共交通アクセスの提供 |
| 取組内容 | ・交通事業者と連携し、観光イベント開催時に利便性が高い公共交通アクセスを提供 |
| 実施主体・協力主体 | 奈良市、大和郡山市、斑鳩町、安堵町、川西町、王寺町、奈良県、交通事業者 |
| 実施効果 | 公共交通の利便性の向上、観光客の増加 |
| 実施期間 | R5.4～ |

| | |
|-----------|--|
| 取組名 | デジタル技術を活用した新たな交通サービスの導入 |
| 取組内容 | ・デジタル技術を活用した観光MaaS等の新たな交通サービスの導入に向けた取組を検討・実施 |
| 実施主体・協力主体 | 奈良市、大和郡山市、斑鳩町、安堵町、川西町、王寺町、奈良県、交通事業者 |
| 実施効果 | 公共交通の利便性の向上、観光客の増加 |
| 実施期間 | R5.4～ |

| | |
|-----------|---|
| 取組名 | 観光施設と連携した公共交通の利用促進策の実施 |
| 取組内容 | ・観光施設と連携して、沿線にある観光施設の魅力を発信する宿泊旅行商品を造成・PRするとともに利用促進策を検討・実施 |
| 実施主体・協力主体 | 奈良市、大和郡山市、斑鳩町、安堵町、川西町、王寺町、奈良県、交通事業者 |
| 実施効果 | 観光施設の魅力向上、公共交通利用者の増加 |
| 実施期間 | R5.4～ |

| | |
|-----------|---|
| 取組名 | 路線バス車内モニターによる観光施設案内 |
| 取組内容 | ・路線バス車内のモニターで、観光施設の案内等を行い、観光地の知名度向上とともに利便性向上を図る取組を検討・実施 |
| 実施主体・協力主体 | 奈良市、大和郡山市、斑鳩町、安堵町、川西町、王寺町、奈良県、奈良交通 |
| 実施効果 | 観光地の魅力PR、公共交通利便性向上 |
| 実施期間 | R5.4～ |

| | |
|-----------|---|
| 取組名 | 観光客向けモデルルート作成及び観光PRの実施 |
| 取組内容 | ・各観光施設等に公共交通で巡っていただくようなモデルルートの作成 ・デジタル技術等を活用した効果的な周知方法の検討・実施 |
| 実施主体・協力主体 | 奈良市、大和郡山市、斑鳩町、安堵町、川西町、王寺町、奈良県 |
| 実施効果 | 公共交通利用者数の増加 |
| 実施期間 | R5.4～ |

| | |
|-----------|---|
| 取組名 | 交通モードを組み合わせた周遊観光の促進 |
| 取組内容 | ・観光客の移動ニーズに合わせて複数の交通モードが連携する周遊観光の取組を検討・実施 |
| 実施主体・協力主体 | 奈良市、大和郡山市、斑鳩町、安堵町、川西町、王寺町、奈良県、交通事業者 |
| 実施効果 | 公共交通の利便性の向上、観光客の増加 |
| 実施期間 | R5.4～ |

誘致している企業向けの取組

| | |
|-----------|---|
| 取組名 | 企業誘致事業と連携した公共交通利用促進及び既存工業団地内におけるバスの運行 |
| 取組内容 | ・企業誘致事業と連携し、通勤需要を取り込めるような取組の検討・実施 ・既存工業団地企業が共同出資するバス運行の検討・実施 |
| 実施主体・協力主体 | 安堵町、 川西町 、奈良県、奈良交通 |
| 実施効果 | 公共交通利用者数の増加 |
| 実施期間 | R5.4～ |